

令和 8 年度 法人本部事業計画書

社会福祉法人 ささゆり会

令和 8 年度法人本部事業計画書においては、魚崎・姫路両事業所における ICT 導入を推進し、業務システムの大幅な効率化を実現いたしました。本 ICT 化は生産性の向上や働き方改革の一環として、職員の労働負担軽減ならびに利用者への介護サービスの質的向上につながる重要な施策と位置付けております。さらに、生産性向上連携加算Ⅰの取得に向けた諸施策を展開するとともに、その他の加算取得可能性についても積極的に検討・取り組みを行う予定です。また、ICT 化が未整備の事業所については、補助金活用による ICT 導入促進を図り、並行してノーリフトケアの取り組みも推進してまいります。また、施設整備に関しては、施設設備の老朽化対策として、修繕および機器更新等の検討を継続いたします。

研修体制強化についても引き続き重点課題として位置付け、昨年度同様に毎月研修を実施することで、常勤及び非常勤全職員の参加体制の構築を図ります。特に虐待防止研修の充実に努めるほか、労務管理面では社会保険労務士によるパワーハラスメント・セクシャルハラスメント・カスタマーハラスメント等の防止研修を実施いたします。今年度は新たに、公認会計士村田氏による会計研修も管理職・会計責任者層向けに実施し、更なる知識向上を目指します。あわせて、マーケティング研修・営業研修も体系的に実施し、リーダークラス職員およびデイサービス担当者の能力強化を図ります。

また、本年度は、インドネシアより 3 名の特定技能生の受け入れを計画しており、サンライフ土山 2 名、サンライフひろみね 1 名が対象となります。これに際し、日本語教育および介護福祉士資格取得支援を通じて、円滑な業務適応を後押しする体制を構築いたします。

これらの施策を通じ、当法人「ささゆり会」は地域社会への貢献ならびにご利用者・ご家族への高品質なサービス提供を目指し、全職員が一丸となって課題解決および業務改善に取り組んでまいります。

運営スローガン：

『職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～』

1. 本年度の重点課題

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・外国人技能実習生受け入れ
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・業務の無駄を可視化し業務改善
 - ・施設の DX 化
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・幹部職員の育成研修
 - ・特定技能生の採用と育成
 - ・虐待防止対策の推進

2. 定例会議

ア. 理事会

当法人の業務執行機関として、事業報告・決算の承認・事業計画・予算の承認その他重要事項決定のため、以下の執行を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第 1 回 理 事 会	1. 事業報告・決算報告の承認 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. その他諸規定の検討	2026 年 6 月
第 2 回 理 事 会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の経営内容について	2026 年 8 月
第 3 回 理 事 会	1. 経営戦略について 2. 各事業所のサービス内容について	2026 年 10 月
第 4 回 理 事 会	1. 上半期事業推進報告と課題の検討 2. その他諸規定の検討	2026 年 12 月
第 5 回 理 事 会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の人材確保について	2027 年 2 月
第 6 回 理 事 会	1. 事業計画書・予算案の承認 2. 法人組織・諸規定の検討、その他	2027 年 3 月

イ. 監事会

事業の執行状況及び決算についての報告と、理事会に意見を述べるため以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	
監査報告	1. 会計監査人会計監査報告	2026 年 6 月
第 1 回監事会	1. 前期事業報告・決算の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施課題について 3. その他運営上の課題について	2026 年 6 月
第 2 回監事会	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. その他施設運営上の課題について	2026 年 12 月

ウ. 評議員会

当法人の役員の選任と、法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行う機関として位置づけ、必置の議決機関として以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
定時評議員会	1. 充実残高計画の承認 2. 2025 年度計算書類の承認	2026 年 6 月
臨時評議員会	1. 2 次補正予算案の承認 2. 事業計画・予算案の承認	2027 年 3 月

2. 介護保険サービス推進委員会

利用者様の立場に立った介護と生活の質の向上を目指し、以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第 1 回推進委員会	1. 上半期諸事業の取組み結果と課題について	2026 年 12 月
第 2 回推進委員会	1. 2027 年度事業計画御立・魚崎事業所の摺り合わせ 2. 活力ある職場創り推進状況について	2027 年 3 月

特別養護老人ホームサンライフ御立

令和8年度 事業計画書

今年度経営スローガンの「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT機器の活用～」を最優先テーマに掲げ、現場の負担軽減とやりがいの創出を同時に実現する。全館 Wi-Fi と電話設備の新設で業務を効率化し、職員の専門性を発揮できる時間を創出する。ノーリフティングケアやデータ活用による個別ケアを推進し、負担軽減とやりがいを両立。さらに BCP 連携や外国人スタッフ支援を強化し、離職のない持続可能な職場と安定経営をめざす。

1. 生産性向上・業務の標準化への取組み

導入済みの ICT 機器（ケアカルテ・眠りスキャン・インカム）を使い、多職種が一体となった科学的介護を実践する。状態変化に合わせた PDCA サイクルを回すことで、対人援助の本質である「人物理解」と「個別化」を深める。具体的には、眠りスキャン、全室に導入予定の見守りカメラのリアルタイムデータを活用し、一律の訪室を見直して睡眠を妨げない個別ケアへ移行する。インカムによる即時共有とケアカルテの画像管理機能を活用し、褥瘡の兆候やバイタルの異変を医務と共有することで、早期発見・早期対応の体制を構築する。5S・業務改善活動は各班で継続し、ICT で生み出した時間と心のゆとりを、職員にしかできない利用者本位のケアへ再投資し、安心安全な生活環境を追求する。

2. 職員研修・指導強化

生産性向上と業務標準化を実効性のあるものとするため、その土台となる心理的安全性の高い組織づくりを最優先課題とする。職員一人ひとりが自身の役割を認識し、互いに意識を高め合い、自由に意見を発信できる考え行動するチームとしてのシステムを構築する。

I. 内部研修について

法人実施の外部講師によるハラスメント研修（パワハラ・セクハラ等）、虐待研修に加え、事例検討のグループ討議を取り入れた研修を定期的実施する。内部研修の充実とマニュアルの継続的な見直しを通じ、職員の心理的負担を軽減し、誰もが安心して専門性を発揮できる職場環境を整える。

また、介護技術の強化として、従来の力任せの介護から脱却し、福祉用具を効果的に活用するノーリフティングケアを推進する。施設の作業療法士を中心とした実技研修を定期開催し、長く介護を続けられる身体の使い方を習得することで、職員の腰痛予防と

利用者の身体的負担軽減を図る。

Ⅱ. 外国人スタッフの定着支援と共生する職場づくり

日本語習得をチームの一員となるための学びと位置づけ、日誌や申し送りを通じて意図的に対話する機会を増やす。日本語勉強会については、出席率向上のための業務調整を徹底するとともに、習得が自身のキャリアと現場の安全性に直結することを丁寧に伝える。あわせて、講師側からの評価と本人へのヒアリングを並行し、モチベーションの維持を組織で支えていく。教育を現場任せにせず、リーダー層が連携して学習状況やメンタルを把握し、指導側の負担軽減に向けた指針も明確化する。介護技術は個々のレベルに応じた段階的な指導を行い、身体的負担を抑えつつ成長を評価することで、安心感と帰属意識を高め、長期定着へ繋げる。

Ⅲ. 排泄ケアの最適化

利用者の状態に合わせた排泄パッド選定の全面的な見直しを実施する。製品選定と当て方の標準化、および排泄パターンの検証により、漏れや皮膚トラブルを防ぎ利用者の快適性を向上させる。あわせて、交換回数の最適化や、漏れに伴うリネン交換等の付随業務を削減することで職員の負担軽減を図る。また、適切な吸収量の製品を使用することで、資材コストの抑制と廃棄物の削減にも同時に取り組む。

3. BCP と感染予防対策の実施

感染症や自然災害などの緊急事態下においても、継続して安定したサービスを提供できるよう、BCP の定期的な見直しと周知徹底を図る。特に、ショートステイ・デイサービス・ケアハウスが併設されている複合施設の利点を活かし、日頃から事業所間での協力体制や迅速な連絡網を整備・強化する。合同実践訓練を実施し、有事の際の役割分担を再確認するとともに、既に導入している緊急時用バッテリーや災害時用発電機の操作方法を平常時から確認し、訓練内での実際の稼働検証を通じて非常時の即応力を高める。多職種・多事業所が一体となり、ハード・ソフト両面から安心・安全な施設運営を追求する。

4. 収入の確保

入所率 98%以上の維持を目標とし、ロング（短期入所）から特養へのスムーズな移行を促進する。入院発生時には医務と連携して状態観察を強化し、早期発見対応・早期入院・早期退院のサイクルを確立することで、ベッド回転率を高める。空床時にはショート相談員と密に連携し、入院ベッドをショートステイとして有効活用する。入所申し込みに対しては迅速な面談・調査を行い、待機者の確実な確保に努めるとともに、適切な介護度見直しと算定可能な加算取得を徹底し、収益性の向上を図る。

支出として、ICT 機器の安定稼働に向けた全館 Wi-Fi 環境の整備、および電話主装置の更新を予定している。これにより、職員が携帯するスマートフォンでナースコー

ル受信や内線通話が可能となる。この高額な設備投資は、将来的な業務効率化と職員の身体的・精神的負担の軽減に不可欠である。光熱費・食材費の高騰に対し、パッド選定の見直しによる廃棄物削減や5S活動による備品管理の徹底など、現場レベルでコスト意識を持ち、利用者満足度の向上と経営の安定化を両立させる。

●年間収入予想（令和7年度実績の2月・3月分は目標の数値です。）

(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	39,864	40,566	39,215	40,840	40,883	40,200	241,568
令和 8 年度収入計画	39,936	49,113	41,622	40,078	42,589	35,074	248,412
令和 7 年度支出	33,880	31,586	42,154	36,750	32,539	29,280	206,189
令和 8 年度支出計画	35,111	33,931	43,424	37,549	31,257	30,248	211,520
令和 7 年度収支差額	5,984	8,980	-2,939	4,090	8,344	10,920	35,379
令和 8 年度収支差額計画	4,825	15,182	-1,802	2,529	11,332	4,826	36,892
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入	41,830	40,466	40,130	40,667	36,758	40,696	482,115
令和 8 年度収入計画	33,578	34,499	51,775	45,190	36,555	40,451	490,460
令和 7 年度支出	34,927	43,460	44,967	27,582	33,870	33,870	424,865
令和 8 年度支出計画	32,686	30,248	44,432	30,142	28,232	31,257	408,517
令和 7 年度収支差額	6,903	-2,994	-4,837	13,085	2,888	6,826	57,250
令和 8 年度収支差額計画	892	4,251	7,343	15,048	8,323	9,194	81,943
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				102%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				96%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率				143%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入に関して、大幅な増収は見込みにくい状況だが、徹底した人員配置管理により、既存の加算を確実に継続算定する。さらに、ICT 機器の導入による「生産性向上推進体制加算Ⅰ」の上位区分を取得し、業務効率化と収入アップを図る。入所率については、例年通り 98%以上の稼働を目指し、待機者の確保に注力するとともに、利用者の状態変化に合わせた適切な介護度更新を行い、適正な収益確保に努める。これらは、年々増加する設備老朽化への修繕費を捻出するため最優先事項となる。

支出面では、物価高騰による光熱費・食材費の増大に加え、外国人スタッフの継続的な受け入れや既存職員の昇給に伴う人件費の増加が見込まれる。また、環境センサーの導入、全館 Wi-Fi 整備、および電話主装置の更新を予定しているため計画的に実施していく。

サンライフ御立 ショートステイ

令和 8 年度 事業計画書

「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」を基盤とし、職員が自ら考え意欲的に動いていけるように、ICT 機器を活用するとともに、道具の利用や仕組み作りで業務負担を軽減し、誰もが継続して働ける職場を目指す。

1. ICT 機器の活用と生産性向上の取り組み

- ・ **ケアカルテの活用推進**：導入から 1 年以上が経過したが、全機能を活用できていない。写真による状態把握に加え、申し送り機能の活用方法をさらに工夫し情報共有の質を向上させる
- ・ **見守りシステムの運用**：全居室へ「眠りスキャン」を導入済みであり、新年度には全室のカメラも稼働する予定。機器が揃った段階で全職員が習熟できるよう再度周知徹底を図る。

2. 「また利用したい」と思ってもらえるショートステイ

- ・ **初回利用の対応強化**：短期利用の初回利用時に注力する。「家以外の所で泊まる」ことへの拒否感を可能な限りなくし、安心して過ごせるよう働きかけるとともに、依頼されたケアの徹底と連絡帳でのメッセージで次回の利用へ繋げる。
- ・ **情報共有の徹底**：新規利用者のデータ共有は、個々での情報収集に任せず口頭での申し送りを実施して徹底を図る。
- ・ **顧客満足度をあげるための具体的対策**：
 - I YouTube 以外のレクリエーションの提供
 - II 状態変化があった際にはどの職員であっても家族様に連絡し報告する
 - III 抜けのない申し送り方法を考案し、仕組み作りをおこなう
 - IV 職員一人ひとりが問題解決力、対応力を身につけ自主的に考えて行動する

3. 虐待・ハラスメント防止

全体会議の時間を利用した外部の講師による研修に加え、事例検討のグループ討議を取り入れた研修を実施する。2 か月に 1 回の研修を全職員が受講し、虐待・ハラスメントのない職場作りに全員で取り組む。

4. BCP と感染予防対策の実施

感染症や災害が発生した場合でも継続して安定したサービスが提供できるよう BCP を定期的に見直す話し合いの機会を設ける。職員への周知徹底と合わせ、年 1 回の各実践訓練を実施する。

5. 収入の確保について

見守りセンサーおよびカメラが全室稼働することで、生産性向上推進体制加算の上位区分取得を見込む。今年もさらに建物設備老朽化によって修繕費がかかってくるが見込まれる。感染流行や入院による不安定要素はあるが稼働率 90%後半を維持し、緊急での依頼も可能な限り対応していく。

ロング利用の入れ替え時の空床を最小限にすることは基本であるので、特養相談員主任と協力して面談を実施し常に2～5名の待機者を獲得しておく。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	10,927	10,771	9,916	9,975	10,722	11,313	63,624
今年度収入計画	11,336	11,090	10,707	10,644	11,365	11,199	66,341
令和 7 年度支出	9,780	8,084	12,268	9,132	9,209	8,109	56,582
今年度支出計画	10,073	8,327	12,881	9,406	9,025	8,352	58,064
令和 7 年度収支差額	1,147	2,687	▲ 2,352	843	1,513	3,204	7,042
今年度収支差額計画	1,263	2,763	▲ 2,174	1,238	2,340	2,847	8,277
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入	11,007	10,498	11,118	10,704	9,770	10,700	127,421
今年度収入計画	11,228	10,813	11,097	10,533	10,027	11,211	131,250
令和 7 年度支出	9,652	8,152	14,137	7,965	7,800	9,200	113,488
今年度支出計画	9,942	8,397	14,844	8,204	8,034	9,476	116,961
令和 7 年度収支差額	1,355	2,346	▲ 3,019	2,739	1,970	1,500	13,933
今年度収支差額計画	1,286	2,416	▲ 3,747	2,329	1,993	1,735	14,289
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率							103%
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率							103%
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率							103%
						※2.3 月は予測です	

【収入・支出・差額についての管理者意見】

安定した稼働率をキープし、加算によりやや収入アップとなるが、修繕費や人件費も同様にアップする見込みである。開設当初からのフロアの椅子が老朽化しており今年度は買い替えが必要である。よって収支差額について大きな変化はない。感染症が出た場合いかに迅速に終息できるかで連続した空床を作らず安定した稼働が維持できると考える。

特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

令和 8 年度 事業計画書

経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」に沿って、既存の環境を最大限に活かして業務効率化や均一化を図り、ケアの時間の延伸を目指していきたい。また、職員間の申し送り等の情報共有関連や連絡手段についても、インカムや端末等の機能を活用し職員の業務負担の軽減、ペーパーレスに向けて取り組んでいきたい。

1. 各委員会活動の運営

Ⅰ. 各委員会活動について

褥瘡：多職種間で予防や早期発見・早期対応に努め、褥瘡発生件数の減少を目指す

看取り：看取りに対する家族理解を深め、看取り件数の増加を図る

感染症：感染症を持ち込まない・クラスターを発生させない

感染症に関しては、熱発などの症状が出た場合に感染症を前提とした行動を職員 1 人 1 人が実施できるよう委員会を通して周知・教育を行っていきたい。

2. ベッド稼働率の維持（経営力強化）に向けて

入院数の低減（前年度入院数の 10%減）を目指し、施設内処方や早期受診での対応で終始できるよう日々の観察や嘱託医・協力病院間での連携に尽力していきたい。入退院を繰り返す利用者に関しては、本人・家族意向を踏まえながら状態を鑑みて早期の看取りの提案を勧めていく。

3. 職員の定着、継続性に向けて

医務内で定期的な会議を実施し、働く上での障害や問題点等を早期に抽出・改善を図り、職員満足度の向上を目指していく。また、求人活動や後人育成に励み、継続的な組織形成を目指していきたい。

4. ICT を使用した業務効率化に向けて

インカムを使った音声入力や受診先で端末からのカルテ入力を推進し、業務効率化やペーパーレス化を積極的に図っていく。また、適宜 AI を活用することによって、詮索時間や会議録等の作成時間の短縮を図り残業時間の軽減に繋げていきたい。

特別養護老人ホームサンライフ御立（厨房）

令和8年度 事業計画書

1. 人材の定着・育成

今年度は、職員の退職・休職が重なり、職員の残業が増えてしまった時期もあったが、2名の職員の補充により、大幅に減少した。厨房業務中にマニュアルを見ながらの作業は手間があるため、厨房内の掲示を利用し、新入職員が出来る限り早く仕事を1人でできるようにしていきたい。また、業務では、1人しかできなきことを減らし、だれが休んでも対応できるようにしていきたい。現在、みかしほ学園や兵庫県立学の実習生を毎年受け入れている。そこから、次年度の入職につなげられるようにし、人材の安定を目指していきたい。

2. 献立の充実

米や肉、魚などの高騰が続いており、全体の食材料費の上昇も続いている。食数に合わせたより細かい食数の調整をし、無駄がさらに少なくなるようにし、食材料費をおさえつつ、食事の質を維持できるようにしたい。また、現在新しい業者から見積もりもらっており、現在仕入れている業者よりも安い食材があったため、調味料や冷凍食品、肉魚の業者の価格の比較を行い、同じものを少しでも安く入れられるようにしていきたい。

3. 厨房内備品、衛生管理

食器や機械などの年数がたち、故障や破損が多くみられる。食器などは利用者の怪我の原因にもなるため、盛り付けや洗浄の時によく見るようにし、破損が見られた際は交換できるよう、予備の食器もそろえていきたい。また、今年度は人員の補充もできたため、換気扇や排水、床、洗浄機等の清掃を当番制にし、職員全員ができるようにしていきたい。

4. 栄養マネジメント

会議等への参加も少しずつではあるができるようになってきている。来年度は管理栄養士の社員が一人増えるため、より一層一人一人に寄り添った食事の提供になるよう、努めていきたい。現在の食事形態は普通食 16%、刻み食 25%、極刻み食 51%、ミキサー食 8%と刻み食と極刻み食の割合が高くなっている。調理法や食材の工夫で、食べやすく改善できるところはしていき、普通食の割合を少しでも増やしていけるようにしていきたい。

デイサービスセンターサンライフ御立

令和8年度 事業計画書

令和8年度ささゆり会経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT機器の活用～」を基に、ICT機器の活用により介護記録や情報共有を効率化し、記録時間や時間外労働を削減することで職員の負担を軽減し、意欲的かつ継続的に働ける職場環境を整備する。また、ICT研修を実施し全職員が円滑に活用できる体制を整え、業務の効率化によって生まれた時間をより良いサービスの提供につなげ、職員の働きやすさとサービスの質の向上を目指す。

1. 利用者の確保について

ICTを活用して空き状況や受入可能日を一覧で管理し、空き状況やサービス内容をケアマネジャーへ迅速に伝え、問い合わせや利用調整にすぐに対応できる体制を整えることで、新規利用者の獲得につなげる。また、事業所の特色やレクリエーション内容、機能訓練の様子などを分かりやすく発信し、サービスの魅力を伝える。さらに、既存利用者一人ひとりに応じた丁寧な支援を行い満足度を高めることで利用継続率の向上を図り、家族や関係機関からの紹介による利用者増加を目指す。

2. サービス内容について

好評の電子オルガンによる生演奏やリズムに合わせて楽しみながら健康を維持できる音楽レクリエーションを今後も継続し、定着しつつある定期的な外出レクリエーションを行い、身体を動かす機会を確保し心身共に活性化を図りたい。定期的に買い物外出も取り入れ、買い物支援も引き続き行いたい。また、理学療法士等による個別リハビリや集団体操を継続して行いADLの維持・向上につなげたい。

3. 職員の教育について

職員の知識と技術の向上を目的に、介助方法、認知症ケアや事故予防などの専門知識を学ぶ機会を設ける。また、ICTを活用した記録入力や情報共有の研修を行い、業務の効率化と記録の正確性を高める。サービスの質向上と働きやすい職場づくりを目指し、職員の資質向上、サービスの質の向上、業務の効率化、働きやすい職場環境の整備を目指していきたい。

4. 虐待防止対策について

虐待防止研修を定期的実施し、身体拘束や不適切ケアの防止、権利擁護の理解を深める。また、日々のケアを振り返る機会を設け、相談しやすい職場環境づくりを行い、虐待のないサービス提供と職員の意識向上を図りたい。

※令和 8 年度 2 月 3 月は予想である。

*収入は介護報酬の収入を記載

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	4, 932	5, 245	4, 935	4, 770	5, 121	5, 136	30, 139
令和 8 年度収入計画	5, 596	6, 022	5, 779	6, 273	5, 952	6, 161	35, 783
令和 7 年度支出	3, 913	3, 863	4, 627	5, 132	5, 033	4, 924	27, 492
令和 8 年度支出計画	4, 352	4, 315	4, 988	5, 269	5, 244	5, 155	29, 323
令和 7 年度収支差額	1, 019	1, 382	308	-362	88	212	2, 647
令和 8 年度収支差額計画	1, 064	1, 707	791	1, 004	718	1, 006	6, 290
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入	5, 823	5, 142	5, 419	4, 963	4, 850	4, 950	61, 286
令和 8 年度収入計画	6, 424	6, 015	6, 524	5, 723	5, 694	6, 308	72, 471
令和 7 年度支出	5, 000	5, 016	5, 778	4, 968	4, 800	4, 800	64, 278
令和 8 年度支出計画	5, 180	5, 263	5, 689	5, 137	5, 100	5, 100	60, 792
令和 7 年度収支差額	823	126	-359	-5	50	50	3, 332
令和 8 年度収支差額計画	1, 244	752	835	586	594	1, 208	11, 509
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				104%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				94. 5%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率				345%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
収入は既存利用者数の安定確保と新規利用者を一定数獲得することにより安定した収入を得ることが見込まれる。支出は老朽化などによる急な修繕費が必要になることを考え節約に努める。また立て続けに長期入院者があったため、8 年度も引き続き利用者を獲得し今後の収入の安定につなげていきたい。							

●令和 8 年度予想利用人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度実績	19.73	20.77	21.0	19.0	21.09	21.27	20.47/月平均
月合計(人)	513	561	525	513	549	553	3,214
令和 8 年度目標	19.5	19.8	20.1	20.4	20.7	21.0	20.2/月平均
月合計(人)	510	525	527	525	536	545	3,168

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
令和 7 年度実績	22.93	21.88	21.55	21.47	21.00	21.00	21.05/月平均
月合計(人)	619	547	582	525	500	500	6,487
令和 8 年度目標	22.3	22.6	22.9	22.9	22.2	22.5	21.35/月平均
月合計(人)	607	550	586	518	505	565	6,499

(令和 8 年度 2 月 3 月 予想)

ケアハウスサンライフ御立

令和8年度 事業計画書

1. 事業計画策定

「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT機器の活用～」をスローガンに、スタートする。

I. 職場環境の改善及び、対入居者における生活の質の向上

職場環境の改善は、少人数で運営している中で余裕がない現状がある。入居者の自立度の低下は著しく、配膳下膳は時間を要する。自立の状態の入居者は、全体の1/6となり何らかのサポートを受けて生活する事が当たり前になっている。その為、早出勤務の二人体制を実現していきたい。又、ICT機器の活用として設立当初から長年使用しているナースコールの取替が挙げられる。

健康寿命の重要性は言うまでもないが、元気に年を重ねる基本は規則正しい生活を送る事である。入居者の多くが、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間に位置していると考えられる。加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能の障害、心身の脆弱性が認められる。フレイル状態に陥っている入居者の改善策、及びウイルス感染を避ける為に“体を動かすこと”を推し進めていきたい。体を動かすと骨や筋肉を使う。免疫力の維持に大切な免疫調整物質は、筋肉と骨から大半が生成される。運動することにより多くが作られる。活動的になる為の機会を設け、雰囲気づくり、後押しをしていきたい。

(1)入居者1人ひとりが、現在の身体状態を把握する。また、測定及びチェックを定期的に実施し変化を認識してもらう。

健康チェック	(目標)2回/月	実施	継続
体力測定	(目標)2回/年	実施	継続
骨密度測定	2回/年	実施予定	新規
フレイル・口腔内チェック	2回/年	実施予定	新規
健康診断	(目標)1回/年	実施予定	継続

(2)予防の為の対策

いきいき百歳体操及びラジオ体操	(目標)月～金曜日(午前9:15～)
学習療法	(目標)1回/週
各種教室の実施	
(目標)「フレイル予防教室」「手作り教室」「カラオケ教室」	
行事の実施	
(目標)「誕生会」「ふれあい喫茶」「外食・バスハイク」「買物の日」	
継続実施したい	

Ⅱ．収支目標

収入については、昨年度と同程度の補助金額が予想される。新規入居者の高齢化が進み居住年数が短くなる傾向がある。入居者の出入りが顕著になると予想される。空室の期間を出来る限り短期間にして満室状態を維持する事が大切である。新型コロナウイルス等感染防止を心がけ待機者の確保も継続的に行い、スムーズな入退去としたい。

支出に関しては、経年劣化による補強や取り替えが予想される。

※令和7年度2月3月は予想

(単位：千 円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	3, 684	9, 790	3, 257	3, 115	10, 006	2, 959	32, 811
令和 8 年度収入計画	3, 281	9, 630	3, 352	3, 050	9, 841	3, 100	32, 254
令和 7 年度支出	3, 908	3, 548	4, 763	4, 787	4, 037	4, 167	25, 210
令和 8 年度支出計画	3, 900	3, 600	4, 800	4, 700	4, 100	4, 200	25, 300
令和 7 年度収支差額	-224	6, 242	-1, 506	-1, 672	5, 969	-1, 208	7, 601
令和 8 年度収支差額計画	-619	6, 030	-1, 448	-1, 650	5, 741	-1, 100	6, 954
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入	3, 157	3, 042	9, 562	2, 872	2, 800	2, 900	57, 144
令和 8 年度収入計画	3, 242	3, 106	9, 941	3, 136	3, 216	2, 995	57, 890
令和 7 年度支出	4, 430	5, 230	6, 738	3, 732	4, 100	4, 100	53, 540
令和 8 年度支出計画	4, 500	5, 100	6, 300	3, 800	4, 200	4, 200	53, 400
令和 7 年度収支差額	-1, 273	-2, 188	2, 824	-860	-1, 300	-1, 200	3, 604
令和 8 年度収支差額計画	-1, 258	-1, 994	3, 641	-664	-984	-1, 205	4, 490
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				101. 3%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				99. 7%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率				124. 6%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
収入については、今年度も入退去が顕著になると予想される為、できる限り円滑な入退去で減収幅を小さくしたい。							
支出については、経年劣化による補強や取り替えが予想される。							

2．職員の健康増進

生活支援休暇及び年次有給休暇の取得については、勤務表作成前に希望休を募り業務に支障をきたさない様職員間で調整をする。

3．虐待防止対策

入居者ひとり一人が、生命、健康、生活が損なわれるような状態を改善しなければならない。施設全体で、虐待・労働基準法研修が年4回実施予定。
施設が虐待に対して適切に対応できる様、虐待防止及び身体拘束委員会を年2回しているが、引き続き継続実施する。又、ヒヤリハットを重要視し記録及び職員間において共有できる様にする。

ユニット老人ホームサンライフひろみね

令和8年度 事業計画書

令和8年度、ささゆり会経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT機器の活用～」をもとに、入居者様が楽しめるクラブ活動の活性を進め、活動を通して職員の意欲向上も図りたい。ICT機器も含めた業務改善を行い、負荷がかかっている業務の軽減に努めたい。

1. 余暇活動の実施

I. クラブ活動の取り組み

昨年度クラブ活動が結成となり、写真部、和みサークル・茶話会部、ガーデニング部、ビューティー部の4クラブを発足させた。活動については実施までは至っていない。今年度は、各クラブの活性化を図り、入所者様が楽しめる姿を見て、職員の意欲も高まり、相乗的に施設の雰囲気がさらに明るくなることを期待したい。

II. 外出機会の増加と地域との交流

ご家族より外出を希望される声が多く聴かれる。行事の企画も含め、近隣の社会資源の活用を行ない、地域の方々との交流を進める中で施設の認知を深めていきたい。

2. ICT機器の活用と業務改善

I. ICT機器の導入

ICT機器として、補助金がおりようであれば、他事業所でも運用している介護ソフトのケアカルテを導入する予定である。記録にかかる時間の短縮と職員間の連絡がスムーズに図れるよう進めたい。

II. 業務改善

介護業務に関しての現状を改めて見直しを図る。効率的に行わないといけないものと、負担を減らさないといけないものを見極め、入所者様の希望にも沿える環境を整えることも考えながら改めて標準的な業務の整備を行なう。障子の張替えも大きな負担になっているとのことで、張替えの必要がない物への交換を図ることについても検討したい。

3. 医務

I. 早期の発見と対応

介護と看護との連携を図り、早期に異常が気付け、早い段階で入所者様の状態変化についての説明をご家族へ行えるよう勧めたい。必要性があれば、看取りの方向性も提案し、ご家族も後悔が残らないように相談を重ねていきたい。

II. 受診の対応

身元引受人が配偶者の場合は、高齢であることが多く、病院受診への対応が難しくなっているケースが増えつつある。入所者様の状態の伝達や病院との連携が図りづらくもなっている為、受診時に情報共有がスムーズに行える仕組みとケースバイケースの看護職員の柔

4. 収入の確保と支出

年間収入目標

(単位:千円)

[illegible]

デイサービスサンライフ田寺

令和 8 年度 事業計画

令和 8 年度のささゆり会経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」を基に ICT 機器を活用することで、少数精鋭で業務を回し、生産性の向上と協働化ができる職場環境とする。また昨年度に引き続き業務の効率化を図り、利用者様との時間を確保し、サービスの質の向上を目指す。

ハイエース等の大型車を扱える職員が激変しており、開設以来続けていた“毎日外出を行うデイ”を中止せざるを得ない状況であったが、少しずつ外出を再開できるよう取り組んでいく。

1. 利用者数の確保

毎日の外出ができないことの代案として、認知症に対応した授業形式のレクを導入しており、それを定着させると共に中止していた外出レクを少しずつ再開することで、利用者様のニーズに対応し「来て楽しい、明るい。」を実感してもらえるデイを目指す。外出の再開と新たに導入したレク等の魅力が伝わるよう営業力を強化し、新規利用者の獲得を目指す。

2. 介護業務における介護テクノロジー導入について

生産性の向上・省力化の観点から ICT の導入を進めており、如何に端末等を効率よく使いこなし無駄な投資とならないよう対策を講じる。長期的な人手不足への対策となるよう介護テクノロジーをうまく使いこなすことで現場の負担軽減や業務の効率化を図れるよう努める。

3. 人材の確保と介護の質の向上

職員の高齢化等による退職希望が増えているため、急な退職に対応すべく採用活動は継続して行う必要がある。また個々の能力の見極めと代替え案の提示により業務量に大きな差がでないよう配慮していく。職員の入替わりの際、介護技術や知識の差が起きやすいため、新人職員への細やかな指導や定期的な研修等を実施していく。

4. サービス内容の理解を過剰介護への理解

昨年に比べると職員の知識の向上は出来つつあるが、サービス内容への理解が不十分であることから、すべきことではないサービスまで引き受けてしまっていることがある。家族様に協力してもらえことや、他のサービスで対応が必要な部分に関しては担当ケアマネジャーに依頼するなどしてサービスの精査が引き続き必要である。

5. 収支について

開設以来続けていた“毎日外出を行うデイ”を職員不足で中止をせざる得ない状況にあり、利用者数が激変している。今年度は少しずつ外出を再開することで新規利用者の獲得と収入増を目指す。またサービス提供体制強化加算Ⅰを取得できる体制となったため、速やかに届出を行い、収入を確保する。

支出においては建物の老朽化による修繕費が引き続き予想される。人件費と物価高騰は引き続き避けられない状況であり支出の増加が見込まれる。できる限り支出を抑え光熱費等の節約を行う。

※令和7年度2月3月は予想である。

(単位:千円)

[illegible]

令和8年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和7年度実績	21.0	22.3	22.1	21.5	21.0	22.5	21.7/月平均
月合計（人）	546	586	553	580	546	586	566
令和8年度目標	26.6	26.7	26.6	26.9	26.8	26.8	26.7/月平均
月合計（人）	691	721	691	726	696	696	703.5

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和7年度実績	24.0	22.5	21.0	21.0	21.8	22.4	21.9/月平均
月合計（人）	646	563	566	504	520	580	565
令和8年度目標	27.3	27.5	27.0	26.2	26.0	27.0	26.8月平均
月合計（人）	738	688	728	628	623	703	694

* 令和7年度実績2月3月は予想です。

ヘルパーステーションサンライフ御立

令和8年度 事業計画書

今年度スローガンでもある

「職員が意欲的かつ継続的に働ける環境づくり～ICT 機器の活用～」。

同じ方向性を持ちサービスに当たる事が大前提であり、常に念頭に置き行動する。

この先、訪問介護の利用者様へのサービス提供体制も大きく変わっていくと予想される中、ヘルパー任せではなく、ヘルパーと共に行う事で「出来る！」「出来る様になった！」との成功体験を積み重ねていく中で、自宅での生活に自信を持って頂き、在宅生活を充実させられるよう支援していく。そして、可能な限り一緒に動いて頂く＝自立支援の重要性を強く認識し、利用者様及び家族様への周知をより一層、進めて行く方針である。

1. 人材育成と定着について

継続している、全体研修や個人別研修を更にレベルアップを図る。

個人の介護力のばらつきを解消させる為、初回時の職員同行訪問に加え、職員の利用者様宅への訪問機会を増加させる。援助内容・到達度・把握レベルの確認、利用者様からの声の聞き取りを行い、ヘルパーの訪問時の不安を払拭するサポート体制の確立。

また、利用者様の変化にいち早く気付くことの出来る「観察力」「聴く力」を習得し、初心を忘れることなく「コミュニケーション能力」の向上に努める。

訪問介護はチームワークである事を再確認し、サービス提供を行う。

当事業所は、6～20年と長期勤務者が多く定着率が高いが、ヘルパーの高齢化が深刻であり、世代交代が急務である。しかしながら、訪問介護の仕事に魅力がないのか？敬遠される職種である為、常に人材不足が否めない。補員が困難な現状に強い危機感を持ちながらも、登録ヘルパーへの処遇改善を定期的に進め、長期で就労しやすい環境を提供する。

その為には、ヘルパーひとり一人の意見に耳を傾け、寄り添う姿勢は、今後も継続していく。

2. 生産性向上について

業務の効率化を図り、ICT化を推進する。特養やデイにて今年度から導入される

「介護ソフト ケアカルテ」。その中にある訪問系に特化した「ケアカルテ Buddy」。現状、手書きでの記録確認・入力。事務所内パソコンでの予定と実績確認。情報の共有作業に多大な時間を要しているが、本ソフト導入により、訪問記録や実績入力の簡素化を図り、職員やヘルパーの負担が軽減できると予想される。

初期投資や軌道に乗るまでの労力の増大は否めないが、日々の業務を少しでも簡素化でき、時間を有効に使えるのであれば、実施する価値は大いにあると感じる。導入までの時間を使い、デモ利用や最新の情報収集・準備に努める。

3. 収入確保への取り組み

常勤職員に相応する利用者様規定人数に達しており、現状では頭打ちの状態である。これ以上の定員増は見込めない為、収入増を図る為には、職員の増員もしくは、介護の利用者様をふやしつつ、各人の利用回数の拡大が不可欠である。居宅介護支援事業所への営業も必要だが、利用者様の希望に添ったサービス増への提案等、対利用者様・家族様への、より一層の丁寧なサービス説明も必要かと感じる。

また、現状の自費介護サービスの詳細・金額設定等の改定も必要と感じており、より使いやすい物への改革に努める。

4. 有給休暇の取得

休む為には必要な個人の訪問調整。数年前に比べると「申し訳ない」との概念も「お互い様」と考えられるようになり、希望に添い、取得出来ていると感じる。ひとり一人の取得状況を把握し、声掛けしながら、仕事とプライベートをしっかりと分け、心身ともにリフレッシュした形で業務に取り組んでらえる様、今後もしっかりと取得環境を整えていきたい。

※令和7年度2月3月は予想である。 ※収入は介護報酬の収入を記載。

(単位:千円)

[illegible]

サンライフ御立居宅介護支援事業所

令和8年度 事業計画書

年間目標

経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」に対し、事業所内での報連相を意識して行いたい。ケアマネとして、事業所内、各サービス事業所の多職種と連携し、利用者、家族へ相談援助や適切なサービスを提案し、元気に在宅生活が継続できるよう支援することを目標とする。

収入については、常勤4名非常勤1名体制となっている。担当件数は、上限を超えて推移しているが、要介護者の依頼が少なく、要支援者が増えている。育休復帰後の時短勤務の職員の負担が大きくならないように継続して支援したい。引き続き、担当件数の増加、収入増を目指す。

1. 担当利用者・収入の確保

5名体制となり担当件数は上限となっている。要支援の担当が増え、長年要支援のまま推移する方も多い。病院や地域包括支援センターへの営業を行い新規利用者の獲得に努めたい。状態変化による入退院や終了等も多くあるため、定期的に利用状況を把握し新規依頼時にすぐに動ける体制を整える。担当の利用者からの紹介等も積極的に受け入れるようにし、特に地域の方の相談等も迅速に対応できるよう努める。

2. サービスの質の向上

援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で話し合いを行い、全てをフォローするのではなく、各職員が自分で考える、周りを見て動くことができるように、ヒントを与えてお互いにステップアップできるように関わる。また、各地域包括支援センターと連携を取り、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努める。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換を行う。

3. 虐待防止対策

法人の虐待防止研修への参加に加え、事業所内でも研修を行い、学ぶ機会を確保する。虐待の早期発見、早期対応ができるように、各事業所と連携を行う。

4. 有給休暇の取得について

年次有給休暇の5日取得に加えて休みがとりやすい環境を整えることで、リフレッシュできる機会をもつ。きちんと取得するため定期的に声掛けを行う。

5. 特定事業所集中減算の回避

訪問介護、通所介護、地域密着型通所介護、福祉用具貸与のみが対象。減算にならないように現在もグループ内に加え、他事業所の紹介を行っている。引き続き減算にならないよう注意し各事業所からの情報等を収集しておき、紹介できるようにしておく。

6. 介護予防支援

要支援者は多いものの、要支援者の担当依頼があれば積極的に新規獲得に努める。

7. 年間収支の予測

※収入は介護報酬の収入を記載

※令和8年度2月3月は予想である。

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和7年度収入	2,154	2,288	2,295	2,291	2,488	2,477	13,993
令和8年度収入計画	2,880	2,880	2,880	2,880	2,910	2,910	17,340
令和7年度支出	1,456	1,971	3,025	4,255	2,492	2,266	15,465
令和8年度支出計画	2,285	2,285	3,885	4,535	2,285	2,285	17,560
令和7年度収支差額	698	317	-730	-1,964	-4	211	-1,472
令和8年収支差額計画	595	595	-1,005	-1,655	625	625	-220
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度収入	2,768	2,733	2,873	2,816	2,850	2,850	30,883
令和8年度収入計画	2,960	2,960	2,960	2,960	2,960	2,960	35,100
令和7年度支出	2,484	2,290	3,981	2,370	2,265	2,265	31,120
令和8年度支出計画	2,390	2,390	3,990	2,490	2,490	2,490	33,800
令和7年度収支差額	284	443	-1,108	446	585	585	-237
令和8年収支差額計画	570	570	-1,030	470	470	470	1,300
令和7年度と令和8年度計画の収入比率				113.7%			
令和7年度と令和8年度計画の支出比率				108.6%			
令和7年度と令和8年度計画の差額比率				%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入は、担当件数が上限に達しており大きな増加は見込めない。

支出は、昨年は大きな支出なし。今年も引き続きケアプラン連携システムの利用は行うが、1年間は無料対応。介護ソフトの入れ替えは、今年か来年には行う予定となっている。人件費は、年度途中で常勤1名が増え、常勤1名が育休後復帰したため、年間では増加となる。前年度は新規利用者の紹介も多かったが、職員が増えたため要支援の受け入れも多く行った。入院、入所、永眠等の担当終了も多かった。地域包括支援センターや病院への営業活動を行い、新規利用者の獲得、認定調査依頼による収入増加目指すことで収入が増加するように努めたい。

デイサービスサンライフ安室

令和8年度 事業計画書

本年度は、「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」をスローガンに掲げ、職員の働きやすい環境整備を進めるとともに、利用者様が楽しく快適に過ごしていただける施設運営を行っていく。また、前年度に引き続き付随業務の効率化を図り、利用者様と触れ合う時間を増やすことで、より質の高いサービスの提供につなげていく。さらに、営業活動を積極的に行い担当ケアマネージャーとの連携を一層強化することで、きめ細やかな利用者対応を実現し、利用者数の増加および安定した収入の確保を目指す。

1. サービス内容の向上

利用者一人ひとりの心身の状態や生活背景を踏まえ、個別性を重視したケアの提供に努めるとともに安心・安全で満足度の高いサービスの実現を目指す。前年度は歯科衛生士を採用し、歯科衛生士による口腔機能管理及び口腔ケアの充実を図ることができた。引き続き口腔機能向上加算の適切な算定を通じて誤嚥予防や栄養状態の改善、生活機能の維持向上に寄与する。また、機能訓練やレクリエーション活動の充実を図り、利用者様の意欲向上や生活機能の維持向上を支援する。あわせて、利用者様・家族様からの意見や要望を積極的に把握し、サービス内容の改善に継続的に取り組む。

2. 職員育成・定着について

質の高いサービスを継続していくためには、職員一人一人の専門性の向上と、安心して働き続けられる職場環境の整備が不可欠である。そのために引き続き研修参加を推進し、組織全体のスキルアップにつなげていく。また、OJT や定期面談を通じて職員の課題や不安を把握し、個々の成長段階に応じた指導・助言を行うことで、主体的に学び行動できる人材の育成を目指す。あわせて働きやすい勤務体制の整備や業務負担の軽減に努め、ワークライフバランスの確保と離職防止を図る。さらに、ICT 機器の活用による記録業務の効率化と情報共有の円滑化を進め、職員が利用者支援に専念できる環境を整備することで、仕事へのやりがいと定着率向上につなげる。

3. 虐待防止対策について

虐待の未然防止を図る為、引き続き職員研修の実施と相談しやすい体制の整備を行う。日常的なケアの振り返りと情報共有を通じて、不適切ケアの早期発見・是正に努める。

4. 業務の見直し・効率化

前年度に引き続き、各職種が利用者支援に専念できるよう付随業務の見直し・簡素化を図っていく。また、5S活動も引き続き行い、効率よく働きやすい職場環境をさらに整えていきたい。

5. 介護報酬について

令和8年度は、利用者数の安定的確保と各種加算の適切な算定により、介護報酬収入の増加を見込んでいる。特に個別機能訓練加算および口腔機能向上加算の算定を推進し、サービスの質向上と収益確保の両立を図る。一方で、人件費や物価上昇の影響による支出増加に加えて修繕費も増加も見込まれるため、ICT機器の活用や業務改善を通じて生産性向上を図り、収支バランスの最適化に努める。今後も稼働率向上とコスト管理の両立を図り、持続可能で質の高い事業運営体制の確立を目指す。

令和8年度予想利用人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和7年度実績	23.6	23.6	24.3	23.2	23.1	24.6	23.7 / 平均
月合計	612	636	607	626	600	639	3,720
令和8年度予想	25.5	26.0	26.0	26.5	26.5	26.5	26.2 / 平均
月合計	663	676	676	715	689	689	4,108

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度実績	24.9	24.6	25.6	25.5	25.5	25.5	25.3 / 平均
月合計	673	613	690	612	612	663	7,583
令和8年度予想	27.0	27.0	26.5	26.5	26.5	27.0	26.7 / 平均
月合計	729	675	715	636	636	729	8,228

令和7年度2・3月は予想である。

(単位：千円)

[illegible]

姫路市安室地域包括支援センター

令和 8 年度 事業計画書

令和 9 年度には、要支援者に対する「訪問介護」・「通所介護」のサービス利用が変更になり、まだ詳細は不明だが、新規の要支援者は、進行性疾患や病態が安定しない人など、専門職による適切な支援が必要となる人が、訪問型サービス及び通所型サービスにおける「従前相当 サービス」を利用できるよう変更になる予定である。令和 8 年度は変更に備え、市の方針をきちんと理解し、下準備を行っていく必要がある。多様なサービスの情報も収集しながら、総合相談の対応をしていきたい。

地域包括支援センターでは、高齢者を取り巻く環境が複雑化・多様化し、年々業務負担が増大している。業務の効率化を図り、職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくりのため、地域包括支援センターで活用できる ICT 機器がないか情報収集を含め検討していきたい。

事業所内連携については、今年度も引き続き毎日朝礼を実施し、伝達事項や研修報告、地域役員からの情報、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行っていく。また、月 1 回の職員会議を継続して行い、毎月 1 人ずつ担当者を決め、研修を主催してもらうことで、各職員のスキルアップにつなげていく。その研修において年間通して必要な内容も取り入れるようにする。

高齢者虐待に関しては、虐待内容も多様化しており、対応力が求められている。各関係機関とも連携を密にし、早期発見・早期対応につなげるよう努める。対応については、姫路市高齢者虐待等マニュアルに基づき（虐待疑いの場合には）、市や中央保健福祉センター等関係機関と連携をとり、対応していく。また、困難事例等に関しては、ホワイトボードを使用し、可視化した事例検討をすることで、情報の整理と課題抽出を行い適切な支援ができるようにしていく。ホワイトボードを写真で撮り、記録とすることで、業務の時間短縮にもつなげていく。相談対応者については、年に 3 回程度、終結について話し合いを継続実施し、メリハリをつけた支援をしていくよう努める。

研修については、研修案内を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるようにしている。オンライン研修をうまく取り入れながら、必要な研修を受けることや、研修内容を事業所内で共有することで、職員全体でのスキルアップにつなげる。

認知症カフェについては、2 か所で定期開催できている。今年度も楽しく継続できるよう、開催支援を継続し、認知症予防・早期発見・啓発に取り組んでいく。また、認知症に関する講座についても、年 1 回は実施し、認知症の方が地域で暮らしていくことができる地域づくりに取り組んでいきたい。認知症早期発見・早期受診のための気づきのチェックリストについては各グループで今年度も継続して実施していく。

いきいき百歳体操については、今年度も、各グループでフレイルチェックを行い、診断を元に、専門職派遣を利用し、地域の介護予防につなげていきたい。また、参加者の増加を目指し、広報も行っていく。

今年度も、センター便りを 3 ヶ月に 1 回、地域役員向け活動報告書を 2 ヶ月に 1 回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んでいきたい。

※収入は姫路市からの委託料・介護報酬の収入を記載。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	3,501	3,504	3,504	3,472	3,482	3,475	20,938
令和 8 年度収入計画	3,455	3,473	3,523	3,521	3,506	3,493	20,971
令和 7 年度支出	2,806	3,102	5,497	3,866	3,017	2,800	21,088
令和 8 年度支出計画	2,907	3,124	5,592	3,949	2,851	2,962	21,385
令和 7 年度収支差額	695	402	-1,993	-394	465	675	-150
令和 8 年度収支差額計画	548	349	-2,069	-428	655	531	-414
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和 7 年度収入	3,503	3,486	3,469	3,443	3,478	3,475	41,792
令和 8 年度収入計画	3,510	3,503	3,485	3,478	3,495	3,505	41,947
令和 7 年度支出	2,756	3,838	5,942	2,784	2,982	2,760	42,150
令和 8 年度支出計画	2,743	2,700	5,960	3,020	5,410	2,910	44,128
令和 7 年度収支差額	747	-352	-2,473	659	496	715	-358
令和 8 年度収支差額計画	767	803	-2,475	458	-1,915	595	-2,181
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				100%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				105%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率				6%			

- ・収入計画では、姫路市からの委託料については、未定のため前年度と同じとしている。
- ・支出計画については、ケアカルテ導入予定を入れている。

特別養護老人ホームサンライフ土山

令和8年度事業計画書

今年度の経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」のもと、介護ソフト『ケアカルテ』や眠りスキヤンの活用を進め、iPad やインカムによる記録・見守り・情報共有を効率化していく。ICT で生まれた時間を、入居者様一人ひとりに合わせた、その人らしい生活を支えるケアへつなげ、安心・安全な介護の実現を目指す。

1. ユニットケアの理念への立ち返り

ユニットケアの本質である「その人らしい生活の継続」が出来ているのかを月1回のユニット会議で話し合う。“その人がどんな人生を歩んできたか”を理解するために、入所時に生活歴や自宅での過ごし方、嗜好品などの情報を家族様から得て、ケアプランや実際のケアに取り入れていく。また、暮らしの中でその人らしい最期を迎えることが出来るようにいつもの場所で、いつもの人たちに囲まれて、穏やかに最期を迎えられるように看取りへの取り組みを深めていく。

2. レクリエーション活動の充実

日々のレクリエーション以外に季節行事や趣味活動を通して、楽しみや生きがいを持った生活が出来るように支援する。レクリエーション活動が十分に展開されていない原因は何かを職員自身が考え、施設内外のレクリエーションが定期的に行われるように各ユニットで業務内容の見直しを図る。

3. ICT や AI の活用

“簡単に使える仕組み”を整え、誰でも迷わずに使える環境を作る。マニュアルを写真などで見える化し、外国人職員にも視覚的に理解できるようにする。

また、ICT や AI を活用して多職種が連携し、情報共有と判断の質を高め、看取りも含め利用者様により良いケアを提供する体制をつくっていく。

4. 5S 活動の形骸化防止

5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）活動を意識し、利用者様にとっても快適な環境を作りや業務の効率化の目的を全職員で共有し、何のための5Sかを常に意識する。

また、現場の改善提案を取り入れ、参加意識を高めていく。その結果を全職員で確認し達成感と継続力を育てていく。

4. ユニット目標

- ・2 西「職員間でコミュニケーションを図り、利用者様の状態を把握して業務・記録を行なう」
- ・2 東「ユニット内や多職種と上手く連携を取る」
- ・3 西「レクリエーションを充実させることで入居者様の活性化を図る」
- ・4 西「決められた業務のルールを守る」「衛生管理の徹底」
- ・4 東「役割・責任感を持って業務を行う」
- ・5 西「利用者とのコミュニケーションをとる」「レクリエーションの時間を増やす。」
- ・5 東「余暇活動の充実、報告・連絡・相談をきちんとしていく」

5. 収支について

今後の安定した施設運営基盤の確立を目指し、収入の最大化と支出の適正化の両面から取り組みを強化します。収入面では、平均稼働率 98%の目標達成に向け、ショートステイ部署との連携を強化し、空床期間の短縮とスムーズな入居移行を図ります。あわせて、地域包括支援センターや医療機関、ケアマネジャーとの連携をさらに深め、迅速な受け入れ対応や情報共有を通じて強固な信頼関係を構築し、継続的な紹介と新規入居者の獲得につなげる。

一方、支出面においては、昨今のインフレや継続的な人件費の上昇への対策として、徹底したコスト管理と生産性の向上に努めまる。具体的には、見守り支援システム「眠り SCAN」・介護ソフト「ケアカルテ」をはじめとする ICT 機器や AI 技術を積極的に活用し、夜間業務の負担軽減やケアの効率化を図る。こうした業務の省力化を進めるとともに、各業務の量や内容に応じた最適な人員配置を再検討し「どこにどれだけの人材を配置すべきか」というリソースの最適化を通じて無駄を削減し、サービスの質を維持しながらも支出を抑える強靱な収支構造を構築していきたい。物価上昇および光熱費高騰が継続する経営環境下において、安定した施設運営を維持するためには、従来以上に厳格なコスト管理体制の構築が不可欠である。

当施設では、光熱費（電気・水道・ガス）およびオムツ等の消耗品費を重点管理項目と位置付け、全職員が経営参画意識を持ち削減を実行できるように努める。

光熱費については、空調温度の適正管理、不要箇所の消灯徹底、水使用量の抑制などを標準化し、日常業務の中で確実に実践する体制を整える。

オムツ代については、利用者ごとの排泄状況を的確に把握し、適切なサイズ選定および交換時間の最適化を徹底する。過剰使用を排除し、根拠に基づいた使用管理を行うことで、無駄のない運用を実現する。

コスト削減は単なる経費圧縮ではなく、経営の健全化とサービスの持続性確保のための重要施策である。全職員が「一円を守る意識」を共有し、組織全体で徹底したコスト管理を実行する。

令和8年度 特養研修計画(特養・ショート・デイ)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
介護・医療研修	電話対応について 特定技能必須	車両操作	薬について	ポジショニング	リハビリ訓練の仕方	防災について
担当者	事務所	デイ	医務	厚生 PT	鈴木	防災委員会
介護講習	シーツ交換について	口腔体操	認知症の理解	車椅子への移乗	移動介助（車いす、杖、歩行器）	食事時の姿勢と介助
担当者 (リーダー)	2 階西	2 階東	3 階西	ショート	4 階西	4 階東
ユニットリーダー対象	仕事の教え方	食中毒について	糖尿病	介護報酬について	法令 監査	防災食について（BCP）
担当者	有本	毛利	医務	下川	有本	毛利
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
介護・医療研修	AED、心肺蘇生	認知症について	腰痛予防について	看取りについて	事故予防について	接遇について
担当者	医務（特養）	認知症委員会	衛生管理委員会	看取り委員会	リスク委員会	接遇委員会
介護講習	身じたく	排泄介助	マスク・手袋の脱着・手洗いについて	口腔ケア・整容	・寝返り（姿勢の変わる）・起き上がり	入浴介助・清拭
担当者 (リーダー)	5 階西	5 階東	2 階西、東	3 階西、東	4 階西、東	5 階西、東
ユニットリーダー対象	機能訓練	認定調査	QC 活動	高齢者虐待	接遇	アルツハイマー型認知症
担当者	鈴木	山田	船引	山田	政次	医務

令和8年度介護状況目標

項目		令和7年度 2 月末状況 (入所者 70 名) 要介護度4	令和8年度 3 月末目標 (入所者 70 名)
日中オムツ使用率		30 名 43%	20 名 36%
入浴統計	特浴	17 名 25%	15 名 21%
	リフト浴	52 名 75%	54 名 77%
	個浴	0 名 0%	1 名 2%
食事形態	普通食	25 名 37%	30 名 42%
	刻み食	15 名 22%	18 名 25%
	極刻み食	18 名 26%	13 名 18%
	ミキサー食	10 名 15%	9 名 12%
	経管栄養	0 名 0%	0 名 0%
褥瘡者		0 名	0 名
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施※		13名 18%	7 名 70%

※看取り介護実施率＝看取り介護実施者／全退所
(急死除く)

※令和7年度の実数は入院者除く

令和8年度収支計画 ※令和7年度2月3月は予想である。

(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	32,061	32,230	31,510	32,659	32,681	32,026	193,167
令和 8 年度収入計画	31,874	32,883	31,851	32,895	32,895	31,848	194,248
令和 7 年度支出	27,899	23,434	35,451	29,261	26,699	23,845	166,589
令和 8 年度支出計画	25,342	24,216	36,313	30,696	24,376	23,351	164,297
令和 7 年度収支差額	4,162	8,796	-3,941	3,398	5,982	8,181	26,578
令和 8 年度収支差額計画	6,532	8,667	-4,462	2,199	8,519	8,497	29,950
	10月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入	32,490	31,842	32,658	32,541	29,678	32,727	385,103
令和 8 年度収入計画	32,895	31,848	32,895	32,895	29,821	32,895	387,498
令和 7 年度支出	24,948	23,650	35,252	24,516	23,850	25,681	324,486
令和 8 年度支出計画	25,347	23,025	35,927	24,854	25,404	23,760	322,611
令和 7 年度収支差額	7,542	8,192	-2,594	8,025	5,828	7,046	60,617
令和 8 年度収支差額計画	7,548	8,823	-3,032	8,041	4,417	9,135	64,880
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率							100.6%
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率							99.4%
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率							107.0%

収入・支出・差額についての管理者意見

今年度の稼働率は 97%であった為、令和 8 年度は 98%以上を目指す。空床期間の短縮を図るためショートと連携を取り、ロングショート利用者の特養入所を円滑に進めていく。支出においては、今後も物価や光熱費などの高騰が予想される。新しい介護ソフトなどの ICT の活用が定着することで、人員配置の調整を図り、人件費の増加を抑えていく。

サンライフ土山ショートステイ 令和 8 年 度事業計画書

今年度は「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ＩＣＴ機器の活用～」を経営スローガンに掲げ、ＩＣＴ機器の活用を通じて、業務の効率化・省力化を図るとともに、心身の負担軽減と生産性向上を目指す。ＩＣＴ機器を有効活用し、情報共有の迅速化や業務の見える化を推進することで、職員が本来注力すべきケアに集中できる環境を整える。

ショートステイとして、安定した稼働率の維持、向上に努める。また、外出やおやつレク等の行事、レクリエーション実施し、利用者様に楽しみを持った生活を送って頂けるよう、顧客満足度の向上を図りたい。

1. 人材育成

- I. 技術不足の職員に対し、日ごろからコミュニケーションを図ることで苦手分野を把握し、業務の中で指導し、解決していく。また、指導する側も伝えることで自分自身を見つめ直し、技術の向上を目指す。
- II. 中堅職員に対し、仕事のやりがい、責任感を持たせるため、施設委員やユニット内の中心的な仕事を担っていくよう、割り振りを行なう。リーダー、リーダー候補職員には、ショートステイの見学対応、予約、契約業務が一人で行えるように、それぞれに同行する機会を設け、指導を行なう。
- III. 業務において基礎である報告・連絡・相談が疎かになっている。出勤前はユニットのノートに必ず目を通し、また記録等を確認することを徹底する。また、共有すべき情報は記録し、職員間で積極的に声をかけ合い共有できるようにする。
- IV. 職員の健康増進のため、生活支援休暇の使用やリフレッシュ休暇等、適切な有休の使用を促していく。

2. レクリエーションの充実

- I. 定期的に外出やおやつレクを実施し、利用者様に楽しみを持った生活を送って頂けるように支援することで、顧客満足度の向上を図る。
- II. 職員自身も取り組むことで介護の楽しさを伝え、実施することでチームワークの向上、幅広い柔軟な発想へとつなげていく。
- III. 実施にあたり、管理栄養士と連携して、季節に合った食べ物を軸に検討し、誤嚥などに注意するなど、十分に対策を行なう。

3. 5S活動の推進

無駄やムリを減らし、業務効率を向上させ、職員の意識向上と働きやすい職場づくりを推進し、5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を意識し、利用者様にとっても快適な環境を作る。

活動の定着に向け、不必要なものの整理を行ない、必要なものの定位置管理を徹底することで、効率的で使いやすい職場環境を整備する。日常的な清掃を通じて安全・衛生管理を強化し、基準やルールを明確化して継続的に維持する。また職員一人ひとりの意識向上を図り、全員参加で改善を継続する体制を作る。

4. 生産性向上、省力化・省人化の推進

目的は人が人に向き合う時間を増やすことであることを前提に行なう。

眠りスキャン・インカム・iPhoneを活用し、業務の効率化と介護の質の向上を図る。また生産性向上、省力化・省人化を推進しながら、安全で質の高い介護サービスの提供を目指す。

操作マニュアルの標準化と職員研修を実施し、ICT危機を確実に活用できる体制を整備する。

5. ユニット目標

「新人教育・職員内の情報共有（報連相をしっかりと行う）」

6. 収入・利用者様の確保

今年度は、月稼働率100%を目標とし、利用者様の獲得に努めていく。

新規利用者様の獲得だけでなく、今利用して頂いている利用者様、家族様の満足度を高め、単発利用で終わるのではなく、定期的に利用して頂けるサービスを行なっていく。そのために、職員や介護の質の向上、レクリエーションの実施を行なっていく。

ロングショートの定着を図るため、都度、各事業所と連絡を行なう際は、ショート、ロングともに利用希望者の有無の確認をする。

入院ベッドの利用やロングから特養にスムーズに移行させるために、特養相談員と密に連携をとることはもちろん、医務とも協力し、部屋の空きが出ないようにする。

(単位:千円)

物価や人件費の上昇が想定され、支出が増えるが、ICT の活用による業務効率化に努め、人件費の増加を抑えるとともに、特養と連携を図り、空床を活用することで稼働率を維持し、収入の確保に努める。

特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

令和 8 年度 事業計画書

利用者様の介護度や医療依存度も高く、決められた職員配置の中、質の高いケアの提供が求められている。医務として、他職種と連携、協働し安心・安全な医療・看護提供、看護体制の充実に努めている。その一つとして入院数の減少（R5 年度 21 名 R6 年度 23 名 R7 年度 15 名）等成果も見られている。

本年度は、業務の効率化の為、【ムリ・ムダ・ムラ】を再度洗い出し、AI を駆使しサービスの質の向上と利用者様への質の高いケアを両立させ、高齢者施設に務める職員としての使命を自覚していきたい。

1 各部署が担当する高齢者の皆様の課題について

- I. 利用者様の状況を見ながら家族と話し合い看取り介護の実施を強化する。
- II. 介護、看護、家族様協力のもと、良い介護が出来るよう支援方法の推進に努める。
- III. 看取り介護等の満足度が向上するようステップアップのための努力と勉強会等を実施する。
- IV. 共通課題達成の為、レクリエーション（ラジオ体操、口腔体操等）の実施及び継続できるよう支援を行う。

2 介護・医療看護・食生活にかかわる全部門において、職員の育成と定着、国内外からの人材確保で他業界・福祉医療業界で勝つには

- I. 最後まで口から食べることの大切さを学び実践に努める。
- II. 上野歯科・長瀬歯科両歯科医師と共働のもと、口腔ケアや食の大切さを実感する必要がある事から、情報の共有を行い問題点に対しての研修を執り行う。

3 設備機能維持・生産性向上、省力化・省人化等を推進していくために AI の活用や使いこなし方

- I. AI 設備の対応に不安があるのが現状であるが、導入により省力化等考えた際
 - ア 看護サイドもフロアに入る時間が増加し利用者様と関わる（向き合う）時間が増すことにより、より質の高いケアを追求することが出来る。
 - イ 健康状態・体調不良等早期発見に努めることができ、信頼関係の構築に寄与する。
 - ウ 介護との共働についても AI 化により業務の効率化を図る。
 - エ AI の活用に対し不安な職員も居るため改善・努力し共に理解を深める。
- II. 生産性の向上による省人化等推進（サービスの向上・職員確保）

- ア 職員のモチベーションの向上（挨拶・感謝・激励などの言葉がけ）
- イ 楽しい職場・働きやすい職場作り（チームケアの向上・情報共有の効率化）

4 利用者様が気持ちよく生活されるために

- I. 朝の環境整備から始まり、整理・整頓、各居室の整備等を協力し支援を実施する。
- II. 利用者様一人一人に寄り添い、日々の声掛けやレクリエーションの参加など、今まで以上に積極的に行い、気持ちの良い日々が過ごせるよう支援を実施する。
- III. 高齢者施設の看護職員として、家族様との関わりをさらに深め、意向に沿った看護を実施する。
- IV. 安心・安全の為、基本に戻った業務（マンネリ化防止等）に努める。
 - ア 錯覚・誤判断・誤操作防止による喚呼業務
 - イ 「報・連・相」の出来る雰囲気成熟

特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

令和 8 年度 事業計画書

今年度は、中・高リスクの利用者様だけではなく低リスクの利用者様にも目を向け、より利用者様にあった食事形態で提供できるよう努める。また、食材費が高騰する中で少しでも価格を抑え利用者様に喜んでもらえる食事提供を行いたい。

1. 栄養マネジメント強化加算

現在、低栄養状態のリスクが高リスク及び中リスクに該当する利用者様は全体の 46% (32 名程度) に当たり、算定要件にある週 3 回以上のミールラウンドはなかなか厳しいながらもなんとか実施できている。今年度は中・高リスクの方だけではなく、低リスクではあるが食事に問題を抱えている利用者様にも積極的に目を向けていきたい。

2. 献立と食材について

献立については、冷凍食材や加工食品だけではなく、お菓子や飲料等全ての価格が値上がり続けている。比較的価格の安い食材を使用し新メニューを少しずつ増やし味の変化でカバーしてはいるが、値上がり続けている食材の使用を控え献立作成を行うとどうしても偏りが生じてしまっている。

少しでも価格を抑えるため、新たな取り組みとして昨年末より肉の代替として大豆ミートの使用を開始した。肉と比較し、食物繊維やカルシウムが豊富で不足しがちな栄養素を補える一方、ビタミン類は少なめなため他で補う必要があるが、肉禁の利用者様にも提供できるため別料理を調理する必要がなく、利用者様も皆と同じ料理が食べられるメリットがある。ただ、下処理の仕方で豆臭さが残ったり食感が悪くなったりと安定した状態で提供することが難しく、合わない料理もあるため、今後は調理方法の工夫や大豆ミートを使用した料理の幅を広げていきたい。

3. 厨房機器について

開設から 10 年以上が経ち、少しずつ厨房機器の不具合が出てきている。昨年度には朝からスチームコンベクションが使用できなくなり急な献立変更を余儀なくされたこともあり、小さな変化を見逃さず致命的な故障につながらないよう日々の点検に気を付けていきたい。

4. 人材確保について

募集要項を変更し問い合わせは増えたが、求める条件と希望される条件が合わず採用に至っていない。このミスマッチをどう埋めるのか再検討が必要と思われる。

デイサービスサンライフ土山

令和8年度 事業計画書

経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT機器の活用～」をもとに職員一人ひとりがICTの使い方を学び、活用できるようにする。ICTを活用し、記録時間の短縮や業務効率を上げていく。そうすることで利用者様とかわる時間を増やしたり、職員研修を実施し、サービスの質の向上に繋げる。

感染対策として手洗い、うがい、消毒、換気を行い、安心してデイサービスを利用していただけるよう環境整備を行う。他者交流の場として、閉じこもり防止や社会参加に繋がるよう利用者様の声を聞き様々なレクリエーションの企画を行う。またレクリエーションがマンネリ化しないように定期的に内容の見直しを行い、毎回来ることが楽しいデイサービスを目指す。機能訓練を行い、身体機能の低下や認知症予防に努め、心身共に健康で在宅生活を続けていただけるよう支援していきたい。

1. 共通課題：足と腕の筋力強化及び肺や喉を鍛える介護支援方法の推進

今までの口腔体操に加え、よこぶえ呼吸を取り入れ、肺の呼吸機能を向上するようにしていきたい。他にも季節に応じた外出を企画し、上下肢筋力の維持・低下予防を図る。体操時もYouTubeでの様々な体操を取り入れることで筋力強化に繋がっていき

2. 職員の育成と定着・人材確保について

採用についてはホームページ等、事業所の様子やイベントを公開し、親しみやすさを前面に出す。育成については定期的な研修を行い、介護知識と技術の向上につなげていく。事故発生時の対応方法の周知徹底、報告、原因分析を行い、職員間で情報を共有し、事故再発防止に努め、安全で快適なサービスを提供していきたい。

職員定着について、これまでの退職理由で多く聞いているのは人間関係である。今後は職員面談を定期的に行い、気持ちに寄り添ったサポートができる体制づくりをしていきたい。

3. 設備機能維持・生産性向上、省力化等を推進していくためには

設備機能維持については、各設備について重要ランク付けをし、重要な設備から予防・保全強化を行い、定期的に点検を実施する。生産性向上については各業務担当表を作成し、職員が動きやすいようにする。ICTについては職員が使用方法を学べる時間を作り、互いに使い方を教え合えるようにしたい。ハナストを使い、口頭で記録す

ることで入力にかかる時間の短縮を図っていきたい。

4. 利用者様が気持ちよく生活されるためには

デイサービスは第 2 の居場所となる方が多いと思うので、安全・安心できる環境づくりが必要と思われる。音に敏感な方もいらっしゃるのでテレビの音のこまめな調整や、職員の声のボリュームを考えながら会話をする。現在トイレに芳香剤や消臭スプレーがなく、前に入られた方の尿臭や便臭が残っていることがよくあり前述の物の設置を検討する。

5S 活動を継続して行い、整理整頓、清掃をし誰もが使いやすく、気持ちがいい生活の場を提供できるようにする。

5. 家族や関係機関との連携の強化

利用者様の状態に変化があれば、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に連絡・相談をし、連携の強化を図る。家族様との連携においては、朝夕の送迎時や連絡帳にて交流を図る。利用者様や家族様から悩みや困りごと、また苦情やサービスに関する意見等、把握している情報を正確に担当ケアマネジャーに報告・連絡・相談する。日頃からコミュニケーションを深め、連携の強化を図り、利用者様の情報を共有しながら、状態の変化に速やかに対応出来るよう努める。

6. 利用者数の確保について

利用者数の確保について、引き続き、月初めに利用状況報告・利用実績報告を兼ね、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所へ出向き、パンフレットやデイ新聞にて、月間スケジュールや空き状況を伝え、信頼関係を構築し新規利用者獲得に繋げていく。また、新規事業所にデイサービスでの成功事例を持って行くことでデイサービスサンライフ土山の知名度を上げ新規獲得に繋げていく。既存の利用者様においては、お休みされる場合などは、別の日に振替利用していただくよう引き続き提案していく。デイから特養・ショートステイ・小規模多機能の利用へと繋がるよう、居宅を踏まえた連携の強化を図っていく。

7. 虐待防止対策

来年度も引き続き法人全体の虐待防止研修や外部での研修を受け、虐待に対する知識を深め虐待や身体拘束のない、適切な介護ができるように努める。利用者様や家族様の相談や苦情処理体制の整備を行う。悩みを一人で抱え込まないように定期的に職員に対しても面談を行い、職員のストレスや感情コントロールができるように思いを傾聴することで虐待を未然に防げるように努める。また職員によっては対応が難しい利用者様に対して、対応を変えてもらう等の対策を行い、利用者様、職員、相互にストレスのないように配慮していきたい。

令和8年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和7年度実績	24.9	25.5	23.7	25.4	25.7	25.6	25.1/月平均
月合計(人)	649	636	594	687	670	666	3,902
令和8年度目標	26.0	25.9	26.1	25.8	25.8	25.8	25.9/月平均
月合計(人)	676	673	678	696	671	671	4,065

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令7年度実績	25.8	25.7	25.8	26.0	26.4	27.4	25.6/月平均
月合計(人)	697	644	699	625	633	712	7,912
令和8年度目標	26.2	26.4	26.1	25.5	25.6	26.3	26.0/月平均
月合計(人)	707	660	705	612	614	710	8,073

＊令和7年度実績2月3月は予想で入れています。

令和8年度収支計画 ※令和7年度2月3月は予想である。 (単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和7年度収入	5,701	5,295	5,039	6,395	5,814	5,905	34,152
令和8年度収入計画	5,966	5,942	5,988	6,146	5,919	5,919	35,880
令和7年度支出	4,111	4,147	6,007	8,208	5,260	4,495	32,230
令和8年度支出計画	4,234	4,271	6,187	6,394	5,417	4,629	31,132
令和7年度収支差額	1,590	1,148	-968	-1,813	554	1,410	1,921
令和8年度収支差額計画	1,732	1,671	-199	-248	502	1,290	4,748
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度収入	6,176	5,669	6,433	5,591	5,503	6,185	69,709
令和8年度収入計画	6,241	5,824	6,217	5,402	5,423	6,265	71,252
令和7年度支出	4,852	4,303	5,894	4,670	5,209	5,488	62,646
令和8年度支出計画	4,997	4,544	6,070	4,810	5,365	5,652	62,570
令和7年度収支差額	1,324	1,366	304	921	294	697	6,827
令和8年度収支差額計画	1,244	1,280	147	592	58	613	8,682
令和7年度と令和8年度計画の収入比率				102%			
令和7年度と令和8年度計画の支出比率				99%			
令和7年度と令和8年度計画の差額比率				127%			

収入・支出・差額についての管理者意見

今年度、新車を購入し支出が増えている。収入については利用者人数が伸びず、前年度より売上げが減少している。ICTを活用して職員を増やさずに業務の効率化を図る。来年度は月平均利用者数26名以上を目標に、営業活動を行っていき、利用者増加を目指す。

サンライフ土山居宅介護支援事業所

令和8年度 事業計画書

年間目標

近年、高齢化に伴いサルコペニアである高齢者が増加している。
居宅としては地域の活動への参加を促すと共に、全身を鍛えていくトレーニングや食生活面では蛋白質を十分に摂取するように助言を行っていく。ディサービスの提案や体に合った福祉用具の選定等利用者様に見合ったサービスの提案を行っていく。

又 ICT を使い業務が円滑に遂行できるよう説明会に参加し理解が出来、使いこなしていくことで業務の効率化を図る。

1. 安定した収入の確保

新規依頼は、包括からの要支援者の依頼が多いが、今後の要介護者の獲得の為人数上限を考えながら対応し、利用者様に必要な区分変更の見直しを行い収入に繋げていく。

委託認定調査については、意欲的に姫路市・他市の依頼を受け、収入増に繋げていく。

2. サービスの質の向上

医療ニーズの高い方や独居問題・認知症の方の対応・社会資源等の取入れ等、課題解決に必要と思われる情報の収集に努め対応していく。

研修会に参加し外部の居宅介護支援事業所のケアマネと情報交換や交流の機会を作り、知識向上に努め利用者対応を行っていく。

家族様との関係性が薄いケースや、身元引受人が不在等問題案件にも包括と関わりを密に持ち、協力しながら利用者様にとって適切な環境作りを行っていく。

感染症・災害時の業務継続計画の見直しを行う

3. 事業所内の連携強化

事業所内の業務が円滑に行えるように、全員で情報共有を行うことで問題解決ができる環境作りを行う。一人で悩まず協力体制を整え、人材の確保と育成を行っていく

事業所全体のプラン件数の把握を全員が行い、業務のばらつきが出ない様協力して行く。また、地域の関係機関や他職種とのネットワーク作りを行い、研修参加などによりマンパワーの UP を図る。

4. 介護予防支援

各地域包括支援センターに対し、営業活動を継続して行い、要介護者の新規依頼に繋がるように努める。

委託プランについて、必要に応じて地域包括に報告・相談を行ない、利用者様にとって必要な支援が出来るよう協力し対応していく。

※令和7年度2月3月は予想。

(千円)

[illegible]

リハビリデイサービス サンライフ御立西

令和8年度 事業計画書

経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」をもち、令和8年度は、職員一人ひとりが安心して長く働ける環境整備を最重要課題とする。ICT 機器を効果的に活用し、業務の効率化を図り、記録・情報共有・連携の質を向上させることで、職員の負担軽減とサービスの質の向上を同時に実現する。その結果、職員満足度の向上、離職率低下、サービスの質の向上を通じて、利用者満足度と利用者数の増加を目指し、選ばれ続けるリハビリ特化型デイサービスとして、安定した運営基盤の確立を図る。

1. サービスの質の向上に向けた取り組み

理学療法士による個別機能訓練を中心に、利用者一人ひとりの生活目標に基づいた支援計画を作成し、定期的な評価を行い、状態変化や達成度を確認しながら支援内容の見直しを図る。ICT を活用し、訓練内容や利用者の状態変化を職員間で共有することで、支援内容の統一と質の向上を図る。また、歯科衛生士による口腔機能向上プログラムの実施状況を適切に記録・分析し、成果をわかりやすく説明することで、利用者・家族の理解と意欲向上に繋げる。業務効率化により直接ケア時間を確保し、個別リハビリ、生活リハビリ、口腔機能向上プログラムを組み合わせたサービス提供を行い、利用者の身体機能だけでなく日常生活動作の維持・向上を支援するとともに、楽しみながら続け、出来ることを増やせるような取り組みを進め、利用者満足度の向上を図る。

2. リスクマネジメント対策

事故・ヒヤリハット事例を速やかに記録・共有し、職員間で迅速に情報を把握できる体制を整えることで再発防止を徹底する。利用者の状態変化や注意事項を適切に管理し、転倒・誤嚥・体調悪化等のリスクを未然に防ぐ。感染症対策においても健康状態の確認や情報共有を徹底し、安全で安心して利用できる環境維持に努める。また、送迎時の安全確認、設備・機器の点検、災害時対応マニュアルの周知徹底を図り、あらゆる場面で安全確保に努める。職員全員がリスク意識を持ち、報告・相談しやすい環境を整えることで、安全で安心できるサービス提供体制を確立する。

3. 利用者増加のための取り組み

ICT の導入を通じて、記録業務や事務処理の効率化を積極的に進めていく。これにより、情報共有を迅速化し、現場で必要な情報をタイムリーに把握できる体制を整える。また、日常業務における手作業や紙媒体での記録・伝達を削減することで、業務負担を軽減し、限られた人員でも効率的に業務を遂行できる環境を構築していく。ICT を活用した情報共有により、職員間の連携が強化され、結果として、現場の生産性を高めつつ、利用者満足度の向上にも繋げていきたい。ケアマネージャーや関係機関への報告書作成や情報提供を効率化し、支援内容や成果をわかりやすく伝えることで信頼関係を強化する。正確かつ迅速な情報発信により紹介増加に繋げていく。また、見学・体験利用対応を丁寧に行い、利用開始までの不安軽減を図る。既存利用者についても支援内容の充実を図り、継続利用と利用回数増加を目指す。

4. 虐待防止対策

虐待防止研修を継続的に実施し、職員の知識と意識の向上を図る。支援記録を適切に管理し、日々のケアを振り返ることで不適切ケアの早期発見と未然防止に努める。また、業務状況を把握し、職員の負担や心理的ストレスに配慮した環境づくりを進める。疑い事例発生時は迅速に情報共有し、関係機関と連携の上適切な対応を行う。引き続き虐待ゼロの施設を目指し、職員一人ひとりが高い意識を持って日々の業務に取り組んでいく。

5. 家族・関係機関との連携体制の充実

利用者の状態変化・利用状況・訓練内容等を正確に把握し、家族や担当ケアマネージャーへ適切に報告することで信頼関係の構築を図る。ICT を活用した情報管理により伝達内容の迅速化と正確性を高め、支援方針の共有を円滑にする。日頃からの丁寧なコミュニケーションを重視し、変化発生時には速やかに連絡・相談・調整を行うことで連携体制を強化する。

6. 収入と利用者数の確保

月平均利用者数 21.3 名を目標とし、利用状況を把握しながら稼働率の安定化を図る。利用実績を分析し、空き状況の把握と受け入れ調整を適切に行うことで、機会損失の防止に努める。引き続き、毎月初めに利用実績・空き状況・利用状況報告を兼ね、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターへ出向き、ケアマネージャーとの密接な関係を築き、新規利用者の獲得に努める。また、既存利用者については、満足度調査や利用状況分析を行い、利用回数増加と継続利用に繋がる支援を実施する。ICT 活用による業務効率化を進め、人件費の適性化と業務時間削減を実現し、安定した収益確保を目指す。

令和 8 年度目標利用人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和7年度実績	21.5	21.9	21.6	20.3	19.9	21.5	21.1/平均
月合計(人)	559	592	539	548	517	559	3,314
令和8年度目標	21.6	21.9	21.7	20.5	20.1	21.6	21.2/平均
月合計(人)	562	569	564	554	523	562	3,334

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和7年度実績	21.7	21.7	21.4	21.3	20.5	20.7	21.2/平均
月合計(人)	587	542	578	510	492	538	6,561
令和8年度目標	21.8	21.8	21.5	21.4	20.6	20.8	21.3/平均
月合計(人)	589	545	581	514	494	562	6,619

※令和 7 年度 2 月 3 月は予想である。

令和 8 年度収入計画 ※令和 7 年度 2 月 3 月は予想である。(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	4,598	5,408	4,876	4,761	4,553	4,916	29,112
令和 8 年度収入計画	5,136	5,206	5,200	5,092	4,785	5,172	30,591
令和 7 年度支出	3,959	3,456	5,005	4,355	4,472	3,668	24,915
令和 8 年度支出計画	4,078	3,560	5,155	4,486	4,606	3,778	25,663
令和 7 年度収支差額	639	1,952	-129	406	81	1,248	4,197
令和 8 年度収支差額計画	1,058	1,646	45	606	179	1,394	4,928
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入	5,284	4,724	5,498	4,562	(4,573)	(4,761)	58,514
令和 8 年度収入計画	5,438	5,009	5,358	4,698	4,507	5,172	60,773
令和 7 年度支出	4,233	4,315	4,762	4,209	(4,035)	(4,357)	50,826
令和 8 年度支出計画	4,363	4,444	4,905	4,335	4,156	4,488	52,354
令和 7 年度収支差額	1,051	409	736	353	(538)	(404)	7,688
令和 8 年度収支差額計画	1,075	565	453	363	351	684	8,419
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				104%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				103%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率				110%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入においては、月平均 20.1 名の目標を達成出来た。今年度は月平均 21.3 名を目標とし、利用人数増を図ると共に取得可能な加算については、積極的に取得し収入増に繋げていきたい。支出においては、修繕費が増える事を想定し、支出増が見込まれる為、引き続き水道光熱費等経費削減に取り組む。

特別養護老人ホームサンライフ西庄

令和 8 年度 事業計画書

令和 8 年度ささゆり会経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」に沿って、ICT 機器を活用しインカムを使用した情報伝達やスマホやタブレットによる複数端末による記録での時間短縮、見守り支援、睡眠状況に合わせた介助方法の変更を行うことで質を確保しながらも職員の負担を軽減し魅力ある職場づくりに取り組みたい。また、機器に頼るだけでなく 5S 活動や業務改善活動を続けることで安全でより効率的に業務に取り組める環境にしていきたい。虐待予防の研修や体制の維持、病院との連携体制の維持継続、感染症対応の研修や訓練、災害も含めた BCP の更新及び研修や研修を行うことで安全で安心して過ごせる介護サービスの供給が継続できるように努めたい。また、リストランテ・ヴォーノによる地域貢献を継続していきたい。また、光熱水費の上昇により、実施している節約行動が緩まないように声を掛け合うことで、支出の増加を低減していきたい。

1. 人材育成について

外国人職員を含めすべての職員に居室担当を決め、家族への意向確認やケアプランの原案を日本人職員と一緒に作成することで、介護職としての意識と自覚を持たせるようにしたい。

2. 介護の質について

I. 生産性向上の取り組み

眠りスキャン・眠り SCANeye の全室導入及び介護支援ソフトケアカルテやインカム等の ICT 機器を活用することで介護職員の業務負担の軽減や事故検証、見守り強化に努めたい。5S 活動や業務改善活動を行うことで、業務のムリ・ムダ・ムラを洗い出し業務の効率化を考えて行く。ただし、効率化を求めすぎてサービスの質の低下に陥らないようにバランスを考えながら進めていきたい。

II. 余暇活動支援

業務の効率化を図ることで、できた時間を活用し外出レクや四季を感じられるレクリエーションを企画・実施していきたい。

3. リスクマネジメント（介護事故・感染症・自然災害等）

I. 感染対策の強化

感染対応については、外部研修への参加、市及び保健所からの情報を収集しマニュアルの更新を行っていきたい。飛沫感染症による隔離対応に対する研修や食中毒における感染予防研修、ガウンテクニック指導等の研修を行うことで実践的な感染症対策を目指したい。また、嘱託医と連携し感染症に対する体制を維持していきたい。

II. 自然災害 BCP

感染症や自然災害が発生をしても入居者に対して適切な介護が提供出来るように BCP の確認・変更及び備蓄品の管理を行う。また、年に 2 回災害及び感染症 BCP 訓練を実施する。

III. 事故について

ヒヤリハット報告の提出を勧め、事故報告書やカメラ映像を検証することで事故の再発予防に努めたい。ICT 機器を活用して事故の早期発見や事故予防に繋げたい。

4. 健全経営（収入・支出等）

営業研修に参加することで営業やマネジメント力を向上させ、病院や介護支援専門員と連携し、入所待機者の確保及び空室を減らし入所率 98%以上を目指したい。支出面としては、電化製品の耐用年数が経過している為故障による修理や買い替えの可能性がある。また、光熱費の費用負担が大きい為、毎月の使用量及び金額を確認し比較することで節約意識を持ち、節約を継続していきたい。ケアカルテを運用することで紙媒体での記録を減らして経費削減に努めたい。

I. 入院者数

寿命が近づいている利用者家族へ終末期の生活の質について説明及び看取り介護を推奨することで、積極的な治療ではなく、ただ延命する為だけの入院を減らして行きたい。また、必要な治療を行う為に入院した場合には家族や地域連携室と情報共有することで早期に退院できるように努めたい。また、入院中は空きベッド利用をショートで活用していきたい。

II. 地域貢献

地域貢献事業として運営している子ども食堂『リストランテ・ヴォーノ』は月 1 回 20 名程度で実施継続していきたい。8 月は夏休みで人気がない為中止する。地域の方や学生ボランティアが参加できるよう調整していきたい。

III. 年間収入目標

※令和 8 年度 2 月 3 月は予想。※収入は介護報酬の収入を記載（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	13,510	14,527	14,148	14,454	14,643	14,188	85,470
令和 8 年度収入計画	13,987	14,447	13,987	14,447	14,447	13,987	85,302
令和 7 年度支出	13,488	10,293	16,431	12,660	10,985	9,556	73,415
令和 8 年度支出計画	13,072	10,799	16,294	12,207	11,484	9,908	73,764
令和 7 年度収支差額	22	4,234	-2,283	1,794	3,658	4,632	12,055
令和 8 年度収支差額 計画	915	3,648	-2,307	2,240	2,963	4,280	11,538

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入	14,454	14,203	14,685	14,414	13,334	14,741	171,307
令和 8 年度収入計画	14,447	13,987	14,447	14,447	13,067	14,447	170,146
令和 7 年度支出	10,546	9,423	17,744	12,694	26,740	11,025	161,588
令和 8 年度支出計画	11,065	9,719	17,476	11,200	10,840	10,776	144,851
令和 7 年度収支差額	3,908	4,780	-3,059	1,720	-13,406	3,716	9,719
令和 8 年度収支差額 計画	3,382	4,268	-3,029	3,247	2,227	3,671	25,295
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				99.3%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				89.6%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率				260.2%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
注入については居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携を図り入院空きベッドの活用で臨時ショートを受け入れ出来るように努め、稼働率 98%を目指したい。特定技能実習生が増えることで介護福祉士人材の減少が見られるため介護福祉士取得支援や在籍する職員を継続雇用出来る環境を作り、取得済みの加算を維持し、法令遵守することで減算にならないように努めたい。支出については給与水準の上昇により人件費が約 290 万円増加予定である。ただし、前年度は多数の修繕と ICT 機器の導入にかかる費用が多かったが今年度は支出を抑える予定である為、収支差額としては 1600 万円の増加となる。ICT 機器を活用し節約に取り組みながら健全な経営に努めたい。							

5. ガバナンスについて（虐待・パワハラ・セクハラ・法令順守・就業規則等）

法人全体の虐待防止研修・ハラスメント研修を全職員が受け、虐待や不適切ケアに対する知識を深めたり、ICT 機器の活用、BPSD 等で介助者に負担が大きい利用者に対する介助方法の見直しや治療等を全職種で検討し対応することで、過度に負担がかからないような体制を構築し、虐待や不適切ケアが生じる事のない安心して過ごせる場の提供に努めたい。また、職員に対しては悩みを一人で抱え込まないように定期的に管理者との面談を行い対応していく。カスタマーハラスメント対策をすることで職員が安全に働ける職場を作っていきたい。

サンライフ西庄ショートステイ

令和8年度 事業計画書

令和8年度ささゆり会経営スローガンである「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT機器の活用～」をもとに積極的に機器を活用することで記録業務の簡略化やリアルタイムでの情報共有を実現したい。機器を導入することで不要な業務を洗い出し更なる改善を検討していきたい。また、事務作業や記録に取られていた時間を対面業務へシフトさせることで利用者様と関わる時間を増やしていきたい。

1. 人材育成について

外国人職員や新人職員が自信をもって業務に取り組めるように、必要なサポートを行っていききたい。外国人職員も同じ介護職員という意識と自覚を持たせ、指示を待つだけでなく、自ら考え行動できるようにしていきたい。また、居室担当としても家族様と連携が図れるように会話面でもサポートしていきたい。

2. 介護の質について

I. 生産性向上について

タブレット端末やクラウドシステムの導入により、記録業務の簡略化やリアルタイムでの情報共有ができるようにし、業務の効率化を行いたい。入力時間も要していたが、その時間が無くなる為、利用者に関わる時間を増やし支援の質を向上させたい。

インカムの導入によりスタッフ間の移動と探す手間を削減していきたい。離れた場所にいてもすぐに連携がとれる体制を整えることで、無駄を無くし緊急時の対応スピード等を向上させたい。

また、5S活動を続けることで無駄を排除し、業務の効率化や安全性の向上を図りたい。

II. 余暇活動支援について

ユニットで毎日実施しているラジオ体操を継続し、その他の生活リハビリを行うことで生活リズムを生み、機能低下を緩やかにすることで保有機能が維持できるようにしたい。

また、レクリエーションの回数を増やしていくことで利用者の日常生活が活性出来るようにしていきたい。職員間でレクの内容を検討し、工夫することで活動量や参加率を上げ、充実させていきたい。

III. 情報共有について

ユニット会議やフロア会議を定期的開催することでスタッフ間の情報共有を図り、チームとして業務が行えるようにしたい。また、申し送り内容や引継ぎは短時間でできる内容に変更している為、引き続き継続していきたい。情報共有を行うことで自分のユニットだけで

なく、隣のユニットの利用者様の状態の把握し、日々の状態変化に対応できるように努めたい。

3. リスクマネジメント（介護事故・感染症・自然災害等）

I. 感染症への体制強化

感染対応について日々変化していく中で、外部研修への参加、市及び保健所からの情報を収集し都度マニュアルの更新を行っていききたい。感染対応の研修やガウンテクニックについても全介護職員が適切に行えるように定期的なチェックや指導を継続したい。

感染症や自然災害が発生した場合、入居者に対して適切な介護が提供出来るように BCP の確認・変更及び備蓄品の管理を行いたい。また、年に 2 回の災害及び感染症 BCP 訓練の実施を継続したい。

II. 事故の再発防止について

居室にカメラを導入することで発見時の状況から推測するしかなかった事故も、映像があることで事故検証が可能になる。また、状況が可視化されることで、介護手順の見直しや居室内のレイアウトの変更など具体的な対策を立てて再発防止に努めたい。

4. 健全経営（収入・支出等）

加算については介護福祉士の資格取得職員が減ったことで現在算定している加算の一つが下がり、約 15 万円の減少が見込まれる。また、他に取得できるものがあれば算定要件等を確認し、検討していきたい。

ロングショート待機者の確保については引き続き電話や FAX を居宅や病院等に入れることで空床を減らし、入所率 98%以上を目標に収入を確保したい。

支出面としては物価上昇率が 3%と予測され、パットや紙オムツ等の価格上昇だけでなく洗剤や食材等の価格上昇も見込まれる。よく使用する物は品質を担保しつつも価格の安い物を選定し仕入れることでコストを抑えたい。また、電気、ガス、水道代の費用負担が増加している為、毎月の使用量及び金額を確認し比較することで職員一人ひとりが節約意識を持ち、節約を継続していきたい。機器を導入することにより、記録も紙媒体での記録を減らすことで経費削減に努めたい。

その他、派遣職員の雇用終了により人件費として 40 万円程減るが、職員の賃金アップと特定技能生の賞与が増え、また諸手当も増えると考えられる為、人件費は更なる支出が見込まれる。

年間収入目標

※令和6年度2月3月は予想。※収入は介護報酬の収入を記載

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	3, 598	4, 382	3, 773	4, 031	4, 185	3, 867	23, 838
令和 8 年度収入計画	3, 778	3, 903	3, 778	3, 903	3, 903	3, 778	23, 043
令和 7 年度支出	3, 948	3, 328	4, 785	2, 981	3, 200	3, 162	21, 407
令和 8 年度支出計画	3, 961	3, 272	4, 937	3, 699	3, 480	3, 002	22, 351
令和 7 年度収支差額	-350	1, 054	-1, 012	1, 050	985	705	2, 431
令和 8 年度収支差額計画	-183	631	-1, 159	204	423	776	692
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入	3, 361	4, 059	4, 143	4, 047	3, 613	3, 996	47, 060
令和 8 年度収入計画	3, 903	3, 778	3, 903	3, 903	3, 529	3, 903	45, 962
令和 7 年度支出	3, 078	2, 738	5, 618	3, 636	12, 130	3, 560	52, 170
令和 8 年度支出計画	3, 353	2, 945	5, 295	3, 394	3, 287	3, 265	43, 888
令和 7 年度収支差額	283	1, 321	-1, 475	411	-8, 517	436	-5, 110
令和 8 年度収支差額計画	550	833	-1, 392	509	242	638	2, 074
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				97. 6%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				84. 1%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率				40. 5%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
収入に関しては前年取得出来ていた加算が取得できなくなる為、収入減が見られる。他に取得できる加算があれば確認し検討したい。							
支出に関しては物価高騰や給与水準の上昇が見込まれる。派遣職員を雇用していたが、契約終了にて人件費が少し下がるが特定技能生の賞与が増える。							
その他、9 年目になることで修繕費の増加が予想される為、節約意識を持ちたい。							

5. ガバナンスについて（虐待・パワハラ・セクハラ・法令順守・就業規則等）

虐待防止の研修は継続して受け、虐待や不適切ケアに対する知識を深め、BPSDにより介助者に負担が大きい利用者に対する介助方法の改善を職員全員で話し合いを行い、家族様へ日々の状態を報告することで理解を得ながら対応したい。また、過度に負担がかからないような体制を構築し、虐待や不適切ケアが生じる事のないよう安心して過ごせるように努めたい。職員に対しては悩みを一人で抱え込まないようにお互いに声かけを行い相談できる環境づくりを行いたい。

その他に関しても法人での研修や外部の研修へ参加することでハラスメント等に対する正しい理解や意識を浸透させていきたい。

グループホームサンライフ西庄

令和 8 年度 事業計画書

令和 8 年度、ささゆり会の経営スローガンである「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用」をもとに、ICT 機器の導入・介護ソフトの入れ替えにより情報共有もいち早く行う。眠りスキャンで夜間の心身への負担も軽減し職員の離職減少に繋げたい。さらに相談しやすく風通しのよい職場を作り、長く働ける職場を目指す。顔なじみの職員がいつも側に居ることで入居者様に、安心のある穏やかな日々を支援していく。

1. 人材育成について

- I. 特定技能実習生に分かりやすい研修で知識と技術の向上に努める。
- II. 認知症ケアの向上に向けて、認知症基礎研修・外部研修などで学び得た知識も内部研修を実施し全職員に周知、共有し認知症ケアの統一と向上に取り組む。
- III. 外国人職員にも居室担当と業務担当を割り当て、責任感を育てる。

2. 介護の質について

介護保険の基本でもある自立支援を念頭に、根拠に基づいた介護を行う。90 才以上の入居者が事業所全体の 7 割以上になり、自己選択・自己決定が困難となりつつあるが、今まで通り自分で選び決めることの機会を多く作る。できる家事を職員と一緒にを行い生活リハビリを活かした支援を行う。ケアカルテ、見守りカメラの導入により業務効率が上がり業務の時間短縮となり、時間を今まで以上に入居者様に関わることに使いたい。信頼関係の構築と、入居者様のレクなどの楽しい時間を増やす。

3. リスクマネジメント

- I. ICT 機器の導入により転倒事故を抑えたい。身体状態、精神状態に留意しヒヤリハットにあがる情報を共有して、次に活かす分析と取り組みを行う。
- II. 職員と家族様が、理解と協力をし合えるように、家族様との信頼関係を深める。
- III. 感染症、自然災害の研修や訓練を行い必要に応じて BCP の見直しをする。カウンテックニックについては着脱の仕方を忘れないように全職員が定期的にチェックを受ける。冬季にはノロウイルス感染の研修を行い、嘔吐物の処理の仕方などを外国人職員、新入職の職員を中心に感染症委員会が研修を行う。

4. 健全経営（収入の確保と支出）

令和 7 年度に引き続き今年度も満床状態を意識し、長期の入院に繋がるようなことを

無くす。ICT 機器の導入により算定できる加算などで全体の収入を増やしたい。空床が出てもすぐに入居案内を行い、年間平均稼働率 98%以上を目指す。支出では今年も賃上げや光熱費、食費の上昇なども続き厳しいと思われるため、出来る節約と、修理、修繕などの大きな出費が発生しないよう備品も大切に扱って行く。

年間収入目標

※令和 7 年度 2 月 3 月は予想である。※収入は介護報酬の収入を記載 (単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入	7, 612	8, 542	7, 733	8, 995	8, 540	8, 350	49, 774
令和 8 年度収入計画	8, 090	8, 413	8, 063	8, 425	8, 375	8, 182	49, 548
令和 7 年度支出	6, 784	6, 386	8, 972	6, 975	7, 092	5, 638	41, 849
令和 8 年度支出計画	7, 315	6, 043	9, 117	6, 831	6, 426	5, 544	41, 276
令和 7 年度収支差額	828	2, 156	-1, 239	2, 020	1, 448	2, 712	7, 925
令和 8 年度収支差額計画	775	2, 370	-1, 054	1, 594	1, 949	2, 638	8, 272
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入	8, 521	8, 061	8, 465	8, 622	7, 734	8, 625	99, 806
令和 8 年度収入計画	8, 350	8, 147	8, 342	8, 450	7, 580	8, 452	98, 875
令和 7 年度支出	6, 876	5, 844	9, 016	7, 918	19, 614	6, 304	97, 424
令和 8 年度支出計画	6, 192	5, 438	9, 779	6, 267	6, 071	6, 030	81, 054
令和 7 年度収支差額	1, 645	2, 217	-551	704	11, 880	2, 321	2, 382
令和 8 年度収支差額計画	2, 158	2, 709	-1, 437	2, 183	1, 509	2, 422	17, 821
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				99.0%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				83.1%			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の差額比率				74.8%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
令和 7 年度に、家賃の引き上げを行い増加になっている。支出については、常勤職員の退職金の発生、賃金のアップ、また特定技能実習生 4 名の賞与の発生もあり、人件費の減少は厳しいと思われる。光熱費の高騰、物価の高騰と厳しい状態が更に続くと思われる。生産性向上加算やサービス提供加算など、取得できるものは行う。修繕、点検費等の出費があると思うので今以上に物を大切に扱う。							

5. ガバナンスについて

法人での虐待防止研修に年間を通して全員が参加し学んでいる。研修で得た教訓や知識を活かし、虐待に繋がる不適切ケアも注意できるように、グループホーム内での虐待研修、認知症ケア研修で更に認識を深めて行く。また、ひとりで問題を抱え込むことのないようにチームとして、話しやすく共有できる環境作りでチーム力を上げる。

特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

令和 8 年度 事業計画書（案）

今後、中重度の高齢者が増加する事が見込まれ、多様化する入居者様のニーズに応えるために安定したサービスを提供していきたい。そのためには、医療的な対応の強化と医療・介護の連携が必要となってくる。入居者様が安全・安楽に過ごせるよう、体調管理や日々の観察を行い、異常の早期発見に努めていきたい。

1. 感染対策の強化

感染症に対する正しい知識や予防方法についての研修、BCP の見直しを行い職員の感染症に対する知識や行動力が向上を継続したい。入居者様の感染兆候時には感染対策・検査等を速やかに行い、嘱託医と連携をとり感染拡大防止に努めていきたい。

2. 看取りへの対応の充実

昨年度、ショートを含め 11 名の看取りを行った。入居者様が最期までその人らしい生活を迎えられるよう、入所時より意向を確認し入居者様や家族様の意向が反映できるように援助していきたい。また、看取り期では気持ちが揺れ動く家族様のため、精神的ケアも行いたい。デスカンファレンスを継続することで看取りケアの充実に繋げたい。

3. 重症化防止への取り組み

高齢者は体の不調を訴え難いため、気づいた時には重症化している事がある。介護職員との情報を共有し早期に嘱託医に報告し、施設で出来る対応へと繋げ、重症化しないように努めていく。昨年度褥瘡 5 名であった。加齢による身体機能低下、認知症の悪化等の影響により誤嚥や褥瘡リスクが高くなっている。ポジショニングの継続や福祉用具の活用、スキンケア・栄養等、多職種と連携を密にして褥瘡予防へと繋げていきたい。

4. 日常生活機能訓練の強化

身体機能の維持や低下した生活機能の向上を目指していくために、日々の生活リハに加え、週 1 回厚生病院理学療法士の往診時に拘縮予防や身体的機能維持について、相談し、指導をもとに一人一人にあった機能訓練を計画し ADL の低下を予防する

5. 職員の健康管理への取り組み

全職員が健康診断や予防接種を適切に受ける事ように支援する。健康診断結果の相談を受け早期受診を勧め、職員が自身の健康についての意識が高められるよう働きかける。

6. ICT 活用について

ケアカルテ導入に伴いスマートフォン・タブレット・インカムの活用がスムーズに行えるように取り組む。インカムを使用した情報伝達やユニットで業務を行いながらの記録作成、受診先で記録を作成する事により待機時間を活用等、PC での記録時間を短縮することで業務の効率化を図りたい。

特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

令和 8 年度 事業計画書

1. 人材の定着・育成

昨年度の事業計画で、人員の定着に繋げるため、厨房業務の指導に努めることを挙げた。週 1 のパートの方は出勤数が少ないため、時間はかかるが、今年度も引き続き、人員を充実させたうえで人材の定着、育成に努めていきたい。

個々の仕事の負担を軽減させるためにも個人のレベルアップをはかり、仕事の幅を広げ効率よく進めていけるよう能力の向上を図る。

2. 献立の充実

食材費については、今年度も値上げされる食品が多数予想されるので、献立の工夫・各業者随時相見積もりを取り、質を落とす事なく食材費をできる限り維持できるよう無駄のないように管理する。

また、季節ごとの行事食に力を入れ、旬の食材を取り入れた献立を提供していく。嗜好調査を実施し、結果を反映させ献立の充実や美味しい食事の提供にも努めていく。

3. 衛生管理

異物混入に関しての報告は無かった。今年度も引き続き異物混入ゼロを維持する。引き続き職員で大量調理施設衛生管理マニュアルを把握し、マニュアルに沿って現在の衛生状態の見直しを行う。また、食中毒に関する情報を職員と共有し衛生管理に対する意識の向上を図る。

4. 栄養ケアマネジメントの充実

介護士、看護師と連携を取りながら入所者様の状態の把握に努める。食事を楽しんでいただけるようミールラウンドを通して、より健康に生活できるように配慮する。

5. 食事形態

今年度も普通食維持を目標とする。令和 8 年 2 月 16 日時点で普通食は 10 名（29 名中）である。全ての食形態アップが難しくても、多職種によるミールラウンドを行い、食べられるものだけでも形態をアップする対応を行っていく。

6. 子供食堂の充実

昨年度は、おかわりを多くしていた高学年の子達の参加が減少したことにより、おかわりの回数を量が全体的に減少した。参加者の人数や年齢等も考慮した量を提供して、廃棄が多く出ないように注意していく。今年度も引き続き行事に合わせてハンバーグの形を変えるなど、季節の感じられるメニューにしていきたい。経費抑えながら、参加者の満足度向上に努めていきたい。

小規模多機能ホームサンライフ岡田

令和 8 年度 事業計画書

少子高齢化が進み、人材確保が一層重要となる中、安定した事業運営のためには職員が意欲を持ち、継続して働ける職場環境の整備が不可欠である。

本年度は法人スローガンである「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」を実践目標とし、ICT 機器を効果的に活用することで業務効率化と情報共有の質の向上を図る。これにより職員の負担軽減と専門性の向上を実現し、働きやすく、やりがいを持って継続勤務できる体制を整える。あわせて、サービスの質の向上と安定した経営基盤の確立を図り、持続可能な事業運営を行う。

1. 職員が継続して働ける職場環境づくり

業務分担の見直しを継続し、特定の職員に負担が偏らない体制を維持する。日常的な残業はほとんど発生していないが、ICT 機器を活用した資料共有や情報伝達の効率化を進め、さらなる業務負担軽減を図る。

月 1 回の職員会議を継続して開催し、利用者の状況、家族との関わり、支援方法、職員間の連携等について情報共有を行うとともに、現場で生じている課題に対する具体的な対策を組織として検討する。意見を出し合える風土を維持し、心理的安全性のある職場環境を整える。

2. 人材育成と意欲向上

職員ごとに研修計画を作成し、計画的に研修を実施する。e ラーニングやオンライン研修を活用し、継続的に学べる体制を整える。

BCP 研修、虐待防止研修等の法定研修を計画的に実施し、専門性の向上を図る。中重度者への対応力や医療ニーズへの理解を深め、実践力の向上につなげる。

将来的な事業所運営の安定を見据え、世代バランスを意識した人材確保に取り組む。特に若い世代の職員を積極的に募集し、育成を通じて次世代を担う人材を育てる。非常勤職員の採用も含め、柔軟で持続可能な人員体制を構築する。

3. 法令遵守とリスク管理体制の維持

虐待防止、身体拘束適正化、感染症対策、事故防止等について、法令に基づき適切に体制を整備し、必要な委員会活動を継続する。各種委員会については、月 1 回の職員会議での情報共有とも連動させながら実施し、記録管理を徹底する。

各種加算要件を正確に理解し、必要な体制整備と記録管理を徹底する。算定要件を満たすだけでなく、内容の質を伴った運営を行う。LIFE の活用や各種データ提出を適切に行い、科学的介護の視点を取り入れたケアの質向上を図る。安定した加算算定により収益基盤の強化を図り、継続可能な事業運営につなげる。

4. ICT 機器の活用による業務効率化

記録業務や情報共有において ICT 機器を積極的に活用し、業務の効率化を図る。タブレットやクラウドを活用し、リアルタイムでの情報共有を推進することで、記録時間の短縮と正確性の向上を目指す。会議資料の電子化やデータ共有方法の見直しを行い、資料準備や伝達にかかる時間を削減する。情報の一元管理を進めることで、職員間の認識のずれを防ぎ、連携の質を高める。

ICT の活用を業務負担の軽減と心理的余裕の確保につなげ、効率化により生まれた時間を利用者支援の充実へ還元する。

5. サービスの質の向上

個別支援の充実を図り、利用者一人ひとりの状態や希望に応じた柔軟な対応を行う。中重度者や医療ニーズのある利用者の受け入れ体制を強化し、対応力の向上に努める。多職種との連携を密にし、情報共有を徹底することで支援の質を高める。利用者および家族の満足度向上を意識した支援を継続する。

6. 安定した登録維持と収入・支出について

登録定員 23 名の安定的な確保を目標とする。地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、医療機関等との連携を強化し、定期的な情報提供を行う。事業所の強みや受け入れ体制を積極的に発信し、新規利用者の確保につなげる。

中重度者の受け入れにも積極的に取り組み、登録単価の安定を図る。利用者の状態に応じて「通い」「訪問」「宿泊」を適切に組み合わせ、過度な通い利用に偏らないバランスの取れた運営を行う。職員配置と利用実績のバランスを意識し、無理のない稼働体制を維持する。

物価高騰や人件費の上昇などの外部環境を踏まえ、収支状況を定期的に確認する。光熱費や消耗品費等の見直しを行い、経費の適正化に努める。加算の適正算定を徹底し、安定した収益確保と支出管理を行う。

※令和7年度2月3月は予想である。収入は介護報酬の収入を記載。 単位(千円)

収入・支出・差額についての管理者意見

収入の安定と増加を図るため、登録利用者数の増加に取り組むとともに、来年度内に総合マネジメント加算を現状のⅡからⅠへ移行できるよう体制を整備し、加算による増収を目指す。

また、要介護度の高い中重度者を積極的に受け入れ、平均要介護度および利用単価の向上を図る。ただし、重度者は利用希望日数が多く、入院等による利用中断のリスクも高いため、利用形態が偏らないよう調整を行うとともに、常に次の利用候補者を確保し、登録の安定維持に努める

支出面においては、光熱水費の節減を継続的に行い、経費の適正化に努める。また、夜勤や遅出に対応可能な非常勤職員の採用を進め、常勤職員との配置バランスを見直す。業務内容と勤務形態の適正化を図り、人件費構造の改善を行う。

デイサービスサンライフ岡田

令和 8 年度 事業計画書

「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり ～ICT 機器の活用～」をスローガンに、令和 8 年度は昨年度導入したケアカルテをより効果的に活用しながら、記録や情報共有の充実を図っていく。少子高齢化が進み、介護人材の確保がますます難しくなる中で、職員一人ひとりが安心して長く働き続けられる職場環境を整えることは重要な課題である。ICT 機器の積極的な活用を通して業務負担の軽減を図り、職員が心身ともにゆとりを持って利用者と向き合える環境づくりを進めていく。また、働きやすさとやりがいを両立できる職場を目指し、継続的な改善に取り組んでいく。

1. ICT 活用による業務効率化

令和 7 年 2 月に導入したケアカルテを中心に、記録業務や情報共有のさらなる効率化を図る。操作方法や入力ルールの再確認を行い、職員間でのばらつきをなくすことで、誰もが使いやすい環境を整えていく。

記録時間や申し送り時間の短縮を目指すとともに、情報の見える化を進め、必要な情報を迅速に共有できる体制を整備する。あわせて業務フロー全体の見直しを行い、ICT を効果的に取り入れた効率的な業務体制を構築することで、利用者支援に充てる時間の確保につなげていく。

2. 職員が意欲的に働ける環境づくり

職員が将来を見据えて安心して働き続けられるよう、資格取得や外部研修への参加を積極的に支援し、専門性の向上とキャリア形成を後押ししていきたい。特に介護福祉士資格取得者が多くない現状を踏まえ、受験に関する情報提供や学習環境づくりなど、具体的なサポート体制を整えていく。

また、ICT 活用によって生まれた時間を、研修や事例検討、日々の振り返りに活用し、互いに学び合える機会を増やしていく。職員同士が意見を出し合い、支え合える風土を育みながら、やりがいを感じられる職場づくりを進めていきたい。

3. 高齢者虐待防止への取り組み

法人研修や事業所内研修を継続的に実施し、全職員の意識向上と実践力の強化を図る。ヒヤリハット事例の共有や日常ケアの振り返りを通じて、小さな変化や違和感を見逃さない姿勢を大切にしていく。

また、悩みや迷いを一人で抱え込まないよう、気軽に相談できる関係性づくり

を意識し、風通しの良い職場環境を整えていく。職員同士の声かけやチームでの支援体制を強化し、安心・安全なサービス提供につなげていきたい。

4. サービスの質の維持・向上

利用者が安心して楽しく過ごせるサービスの提供を引き続き大切にしていける。隔週で実施している買物外出は継続し、社会とのつながりを感じられる機会を確保する。さらに、新しいレクリエーションや個別活動を取り入れながら、一人ひとりの希望や状態に応じた支援を充実させていく。日々の何気ない会話や関わりを大切にし、「ここに来るのが楽しみ」と感じていただけるような、温かみのあるデイサービスを目指していく。

5. 口腔機能の維持・向上への取り組み

口腔機能の維持・向上は、低栄養や誤嚥の予防、生活の質の向上につながる大切な取り組みである。令和 8 年度は、利用者一人ひとりの状態に応じた口腔ケアの充実を図る。歯科衛生士による定期的な評価や専門的助言を個別支援計画に反映させるとともに、日々のケアへ丁寧につなげていく。また、口腔体操を無理なく継続できるよう支援し、楽しみながら機能維持を目指す。

あわせて、居宅介護支援事業所や家族とも情報共有を行い、在宅生活全体を見据えた支援につなげる。専門職および関係機関との連携体制を大切にし、計画的かつ継続的な口腔機能向上の取り組みを進めていく。

6. 利用者数の増加および稼働率向上

現在の平均利用者数は 24～25 名であり、定員 35 名に対する稼働率は約 70% となっている。令和 8 年度は平均利用者数 26 名（稼働率約 75%）を目標とし、安定した事業運営の基盤強化を図る。

居宅介護支援事業所への定期訪問や情報発信を継続しながら、発信内容や方法を見直し、より分かりやすく魅力が伝わる広報活動を行っていく。毎月 3 名以上の新規利用者獲得を目標とし、自然減を見込みつつも着実な純増につなげていく。これらの取り組みを通じて、地域から信頼され、安心して選んでいただける事業所づくりを進めていきたい。

令和8年度目標利用人数 * 令和 7 年度 2 月 3 月は予想で入れています。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和7年度実績	25.96	24.78	25.12	24.66	24.5	25.19	25.03/月平均
月合計（人）	675	669	629	666	637	655	3,931
令和8年度目標	25.6	26.0	26.3	25.8	26.0	26.3	26.0/月平均

月合計（人）	665.6	676	683.8	696.6	676	68.3.8	4081.8
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度実績	24.78	24.76	25.73	23.84	25.01	24.73	24.9/月平均
月合計（人）	669	519	696	572	602	642	7,731
令和8年度目標	26.5	26.5	26.1	25.7	25.3	26.0	26.00/月平均
月合計（人）	715.5	662.5	704.7	616.8	607.2	676	8064.5

令和8年度収支計画 ※令和7年度2月3月は予想で入れています （単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和7年度収入	6,035	5,652	5,687	6,234	5,620	5,740	34,971
令和8年度収入計画	5,776	5,829	5,982	6,026	5,844	5,951	35,408
令和7年度支出	5,266	4,512	5,852	5,860	5,187	5,111	31,792
令和8年度支出計画	4,550	4,550	6,020	4,550	4,550	4,550	28,770
令和7年度収支差額	769	1,140	-165	374	433	629	3,179
令和8年度収支差額計画	1,225	1,278	-37	1,476	1,294	1,401	6,637
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度収入	5,786	5,647	6,240	5,166	5,630	5,647	69,087
令和8年度収入計画	6,176	5,716	6,041	5,261	5,168	5,829	69,604
令和7年度支出	4,694	4,704	6,469	5,060	4,685	5,180	62,584
令和8年度支出計画	4,760	4,550	5,850	4,740	4,550	4,550	57,775
令和7年度収支差額	1,092	943	-229	106	945	467	6,503
令和8年度収支差額計画	1,416	1,165	190	520	618	1,278	11,828
令和7年度と令和8年度計画の収入比率				100.7%			
令和7年度と令和8年度計画の支出比率				92.3%			
令和7年度と令和8年度計画の差額比率				181.8%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入について、令和7年度の下半期は、利用者様の骨折や脳梗塞など長期入院や入所による中止者が相次いだ。新規利用者の獲得や利用回数の追加も多々あったが収入の増加にはつながらなかった。介護福祉士の割合が満たせず、サービス提供体制加算が今年度もできなかった。令和8年度は、新規利用者獲得を目指し営業活動を定期的に行っていく。支出については、令和7年度は人件費や送迎車の修理、パソコンの購入があり支出増となっている。令和8年度も安定した職員確保で人件費の増加や物価高の影響が予想される。

差額については、利用人数の増加に伴う収入増を見込み、前年度よりもプラスを予想している。

サンライフ岡田居宅介護支援事業所

令和 8 年度 事業計画書

年間目標

当事業所は、ICT 機器を活用した業務の効率化を進め、職員の業務負担の軽減と働きやすい職場環境づくりに取り組むとともに、利用者一人ひとりに寄り添った質の高いケアマネジメントの提供を基本方針とする。

タブレットやスマートフォン等の ICT 機器を活用し、記録業務や事務作業の効率化を図るとともに、利用者・家族・関係機関・職員間の情報共有を円滑に行い、切れ目のない支援体制の構築を目指す。新規利用者からの相談や依頼については、常勤 2 名体制により受け入れ体制を確保し、可能な範囲で対応するとともに、事業所全体の担当件数の安定を図る。定期的に利用者の心身の状況や生活環境を把握・評価し、生活上の課題を整理した上で、利用者の意向を踏まえたケアプランの作成および見直しを行う。これにより、住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう支援し、利用者が望む生活の実現と維持につなげる。また、利用者の担当を適切に調整することで業務量の偏りを防ぎ、職員が無理なく業務に取り組める体制を整える。こうした取り組みを通じて、「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」の実現を図るとともに、ICT 機器を活用した記録および情報管理の効率化を進め、職員間ならびに関係機関との情報共有を重視し、連携を深めることで支援の質の向上を図る。

サービスの質の向上

虐待やハラスメント等、対応が難しい事例や課題が生じた際には、事業所内で協議を行い、地域包括支援センターと連携しながら情報共有を図ることで、適切かつ円滑な支援につなげる。また、研修会への参加や他事業所との交流を通じて、必要な知識や情報の収集に努め、支援体制の充実を図る。

1. 委託業務について

・介護予防支援

地域包括支援センターおよび関係機関との連携を強化し、要支援者が自立した生活を継続できるよう支援を行う。居宅介護支援事業所として、可能な範囲で依頼を受け入れ、健康の維持および生活機能の向上を目的とした支援を進める。

・在宅認定調査

毎月の担当件数と業務量を確認し、通常業務とのバランスに配慮しつつ、在宅認定調査業務を継続的に実施する。

2. BCP（事業継続計画）

事業継続計画に基づき、マニュアルの内容を現状に即して確認・見直しを行い、緊急時に優先して実施すべき業務について職員間で共有する。あわせて、研修や訓練への参加を通じて、災害や非常時にも迅速に対応できる体制の維持および向上を図る。

3. 業務効率化

ICT を活用してタブレットやスマートフォン、音声入力等を導入し、さらにケアプランデータ連携を活用することで、記録および情報管理の効率化を進める。業務を円滑に行える体制を整え、職員の負担軽減と業務の質の向上につなげていく。

5. 年間収支の予測

※収入は介護報酬の収入を記載

※令和7度2月3月は予想である。

(単位：千円)

[illegible]

特別養護老人ホームサンライフ魚崎

令和 8 年度 事業計画書

今年度は「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」をスローガンに、ICT の活用を進め、記録・情報共有を効率化することで、入居者様と向き合う時間を確保する。入居者様一人ひとりの尊厳を大切に、「その人らしい生活」を支えるケアの実践を基本とする。毎日のケアの積み重ねを大切に、日々の関わりの中で小さな変化を見逃さず、職員同士が声を掛け合いながらチームで支える体制を強化する。健康推進の取り組みとして、日常の状態観察を丁寧に行い、体調変化の早期発見に努めるとともに、身体状況に応じたポジショニングや口腔・栄養管理を継続し、生活機能の向上に努める。ノーリフトケアは重点項目として推進し、「持ち上げない介護」を現場に定着させる。福祉用具を積極的に活用し、安全な移乗と職員の腰痛予防を両立させる。生活環境の整備や日々の楽しみづくりにも力を入れ、安心して過ごせる温かい施設づくりを目指す。

1. 入居者様の健康の維持・推進

- I. 入居者様の健康を維持するため、毎日のケアの中での気づきを大切にする。バイタル測定だけでなく、「いつもと違う表情」「食事の進み具合」「声の張り」など小さな変化に気づき、職員間で情報共有し、早期対応につなげる。
- II. 水分摂取や食事量の確認、排泄状況の把握を丁寧に行い、脱水や便秘、体調不良の予防に努める。口腔ケアや体位交換、適切なポジショニングを日々確実に実践し、誤嚥予防や褥瘡予防につなげる。
- III. 離床の声掛けを積極的に行い、できるだけベッド上で過ごす時間を減らし、生活リズムを整える支援を行う。小さな積み重ねを大切に、生活機能の維持につなげていく。

2. ICT 機器の活用とケアへの反映

- I. ICT 機器を業務効率化だけではなく、ケアの資質向上につなげることを目的として、活用する。
- II. 眠り SCAN を活用し、夜間の睡眠状況や離床状況を把握することで、巡視の優先順位を明確化にし、転倒リスクの軽減や生活リズムの安定につなげる。得られたデータは日中の活動や排泄ケアの見直しに活かす。
- III. ケアパレットおよびほのぼののボイスを活用し、記録の即時入力と情報共有を徹底することで、状態変化の早期発見と職員間の連携を図る。記録は入力して終わりではなく、ケアの振り返りと改善に活用する。

- Ⅳ. ICT 機器の活用状況については、月 1 回を目安に確認を行い、ケアに反映されているかを検証する。介護リーダーが責任を持って進捗を確認し、活用が形骸化しないように見直しを行う。ICT は「使うこと」を目的とせず、「入居者様の安心、安全につなげること」を目的として運用する。

3. ノーリフトケアの推進

- I. ノーリフトケアを部署の重点施策として位置づけ、「持ち上げない介護」を日常のケアとして定着させる。移乗時にはリフトやスライディングボード等の福祉用具を必ず活用し、職員の判断で抱え上げないことを基本とする。
- Ⅱ. 職員の腰痛予防の観点から、正しい機器の使用方法を再確認し、実践的な内部の研修を行いながら、無理のない介護動作の定着を図る。

4. 生活環境の整備と生活の質の向上

- I. 安心して過ごせる環境づくりのため、業務改善委員会を中心に居室や共有スペースの整理を徹底し、いつも清潔で落ち着いた環境を維持する。入居者様が心地よく過ごせる生活の場として、日々の環境整備と美化活動を大切にする。
- Ⅱ. ベット周囲やテーブル上、車いすまわりなど、日常のケアの中で気づいたほこり、汚れ、破れ、故障などをその都度整える意識を持ち、「後でやる」ではなく、「気づいたときに整える」習慣を定着させる。
- Ⅲ. 環境整備の基本として、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）を徹底し、物品の定位置管理や不要物の排除を行う。清掃は単なる作業ではなく、入居者様の生活を支える大切なケアの一部であるという意識を共有し、全職員で取り組む。

5. 人材育成と職員定着の推進

- I. 質の高いケアを続けていくために、日々の介護現場の中で学び合う姿勢を大切にする。先輩職員が実際のケア場面で声をかけながら方法を伝え、「なぜそうするのか」、「注意すべきは何か」を共有することで、経験や技術を確実に引き継いでいく。
- Ⅱ. 困ったときにすぐ相談できる雰囲気づくりを心がけ、一人で抱え込まない職場環境を整える。業務の偏りが出ないようにお互いに声を掛け合い、助け合える体制をつくることで、安心して働き続けられる職場を目指す。職員一人ひとりが仲間であるという意識を共有し、お互いを尊重しながら成長できる組織づくりを進める。
- Ⅲ. 外国人職員については、日々の業務のなかでやさしい日本語を意識し、記録の書き方や専門用語に加え、気をつけること、身体の使い方（腰痛予防）、を丁寧に伝える。
- Ⅳ. 介護福祉士等の資格取得を目指す職員を支援し、学習機会の確保や情報共有を行う。外国人職員についても、日本語学習の支援や国家試験にむけたサポートを行い、意欲を持って成長できる環境を整える。

6. 日々の備えと基本の徹底

- I. 災害および感染症発生時に備え、事業継続計画（BCP）に基づいた体制整備を継続する。安否確認や連絡体制、備蓄品の管理を定期的に見直し、実践的な訓練を行うことで、緊急時にも落ち着いて対応できる体制を整える。
- II. 感染症対策については、日常の手指衛生や健康観察を徹底し、発生時の初動対応手順を全職員で共有する。
- III. 虐待防止、身体拘束適正化、感染対策、防災等の法定研修を計画的に実施し、知識の習得だけでなく介護現場の実践につなげる。

7. 備品整備および計画的修繕の実施

- I. 入居者様が安全かつ快適に生活できる環境を維持するため、備品の計画的な更新と施設設備（居室壁紙、廊下照明など）の修繕を行う。
- II. 長年使用しているベッドについては、不具合や動作不良が見られるものもあるため、数台を新調する。また、へたりや汚れが目立つマットレスについては全床分（30床）の更新を検討する。マットレスの状態は褥瘡予防、安眠に直結するため、介護現場での使用状況を踏まえながら計画的に入れ替えを行う。日々の点検を行い、「まだ使える」ではなく、「安全に使えるか」という視点で確認し、必要な修繕は早めに対応する。備品はケアを支える大切な道具であるという意識を持ち、丁寧に扱いながら適切な更新を進めていく。

8. 稼働率 98.5%を目標に安定運営の推進

- I. 安定した施設運営を継続するため、長期入院をできる限り防ぎ、空床期間を最小限に抑えることを重点とする。日々の健康観察を徹底し、体調変化の早期発見と迅速な受診対応を行うことで、重症化を防ぎ入院期間の短縮につなげる。
- II. 入院中も家族や医療機関と連絡を取り合い、退院後の受け入れ体制を事前に整えることで、円滑な復帰を支援する。また、退所が生じた場合には速やかに次の受け入れ調整を行い、関係機関との連携を密にすることで空床期間の短縮を図る。介護現場の小さな気づきと迅速な対応の積み重ねが、結果として稼働率 98.5%に維持につながることを全職員で共有し、安定した施設運営を目指す。
- III. ショートステイと情報共有を行い、在宅利用者の状況把握に努める。将来的に施設入所が必要となるケースについては、早期に情報を得ることで、円滑な入所につなげる。

令和7年度 (実績)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	96.7%	100.0%	99.2%	98.5%	95.8%	92.0%	98.0%	96.2%	97.3%	94.1%	92.0%	98.5%	96.5%
令和8年度 (目標)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5

9. 令和8年収支差計画

令和8年度収支計画

単位 千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和7年度収入実績	12,130	12,922	12,427	12,558	12,328	11,615	73,980
令和8年度収入計画	12,990	13,420	12,990	13,420	13,420	12,990	79,230
令和7年度支出実績	10,629	9,522	15,470	9,137	10,019	9,604	64,381
令和8年度支出計画	12,270	12,270	16,039	12,270	12,270	12,270	77,389
令和7年度収支差額	1,501	3,400	-3,043	3,421	2,309	2,011	9,599
令和8年度収支差額計画	720	1,150	-3,049	1,150	1,150	720	1,841
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度収入実績	12,589	12,137	12,578	12,164	10,742	12,733	146,923
令和8年度収入計画	13,420	12,990	13,420	13,420	12,100	13,420	158,000
令和7年度支出実績	10,351	9,159	13,774	9,774	9,774	9,774	141,987
令和8年度支出計画	12,270	12,270	16,038	12,270	12,270	12,270	154,777
令和7年度収支差額	2,238	2,978	-1,196	2,390	968	2,959	4,936
令和8年度収支差額計画	1,150	720	-2,618	1,150	-170	1,150	3,223
令和7年度と令和8年度計画の収入比率							107.54%
令和7年度と令和8年度計画の支出比率							109.01%
令和7年度と令和8年度計画の収支差額比率							65.30%

※令和7年度の12月、1月、2月、3月は見込み

※令和7年度支出実績合計に減価償却費（1,500万円）を含む

※基幹福祉避難所の補助金を除く

管理者意見

今年度の収支見通しについては、物価や人件費の上昇が続く中、これまで以上に安定した稼働率の維持が重要となる。特に長期入院の防止と空床期間の短縮に取り組み、収入の安定確保を図る。

支出面では、光熱費や消耗品の価格上昇を踏まえ、無駄のない運営を徹底する。一方で、老朽化した備品の更新や必要な修繕については計画的に実施し、安全で質の高いケア環境を維持する。

収支差額については、日々の取り組みの積み重ねが結果として反映されるものであることを全職員で共有し、稼働率98.5%を目標に、安定した施設運営に努める。

経営の安定とケアの質の向上を両立させ、持続可能な施設づくりを進めていく

以上

魚崎高齢者介護支援センター（短期入所生活介護）

令和 8 年度 事業計画書

令和 8 年度経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」に基づき、ICT 導入・定着・活用を推進し職員の業務負担の軽減と支援の質の向上を図ります。

経験や勘に頼るだけではなく、可視化されたデータや根拠とする支援体制を構築し、利用者様が安心・安全に過ごせる環境の作りを行います。

ICT 導入は、業務効率化のみを目的とせず、職員の身体的・精神的負担を軽減し、利用者様一人ひとりに寄り添う時間の確保しや利用者様との関わりを大切にした支援につなげるよう、職員一同で取り組みます。

また、ICT 導入により可視化された情報や身体状況の変化を、在宅支援における必要な情報として、全体（ご家族様やケアマネージャーも含む）に共有・連携を行うとで、安心して利用いただける様努めます。

ロングショートステイについては一定数の受け入れを行い、変動に柔軟に対応できる体制づくりと、法人内他部署との連携を強化することで、切れ目のない支援を行います。

5S 活動の徹底、人材育成の強化を通じて、職員が安心して、長く働き続けられる環境整備を進めることで、結果として利用者様支援の質の向上を目指し「泊まる」だけではなく、「在宅を支える」ショートステイとして、利用者様が【安心して楽しく生活が継続】できるように支援します。

1. I C T 導入と支援の質の向上

- I. 眠りスキャンやほのぼのボイス等を確実に運用するため、操作方法、記録方法や、情報共有の方法を統一し、日常業務への定着を図る。
- II. 生活状況や体調変化を客観的に把握し、得られた情報を共有・分析することで職員間の支援のバラつきを減らし事故及び負担の軽減につなげる。
- III. AI 活用の可能性も検討し、情報整理や業務効率化するとともに職員の心理的余裕の確保を図ります。
- IV. I C T 活用によって業務の効率化を進め、創出した時間を直接ケアへ還元し、支援質の向上を目指します。

2. 在宅生活を支える受け入れ体制の強化

- I. 在宅生活の継続を支えるショートステイして安心・安全なケアを提供するため、各職員が役割を明確にし、責任感持ち支援を行う。
また、利用者様やご家族様からの声をケアに反映・課題分析・施設内外問わず情報共有の強化、を行うことで、利用者様に安心し信頼して頂けるよう関係性を構築を図ります。
- II. 他部署との連携を強化。ロングショートステイ中の状態変化や、施設全体の入居者様確

保、待機者にもご案内や転居が行えるよう連携を行い、切れ目のない支援を行います。

Ⅲ. 定員 20 名のうち、10 名のロングショートステイ枠を維持しつつ、ロング減少時の受け入れ態勢を強化するため、待機者の確保および、短期・定期・緊急利用を柔軟に受け入れ、の調整を行い、平均利用人数の低下を防ぎ、安定した稼働につなげる。

Ⅳ. 生活リハビリやレクリエーション等の充実することで、心身機能の維持や生活意欲の向上により、安心して楽しく過ごしていただけることを目指す。

在宅での生活習慣や思いを尊重し、その人らしさを大切にしたい支援を行い「また利用したい」と感じていただける環境づくりを行う。

4. 5S 活動の徹底と業務環境の整備

Ⅰ. 5S 活動の取り組みを一過性の取り組みではなく、継続して取り組み、業務の標準化と効率化を進める。

物品の定位置管理及び、不要物の整理整頓を徹底し、職員の動線を整備することで、誰もが働きやすく、身体的負担や安心・安全に過ごせる環境を整える。

(1) 日々の業務の中で短時間でも、環境整備を行う習慣をつける。

(2) 不要物の基準を明確にし、物品の定位置管理・環境整備の改善を行うことで業務効率の向上を図る。

Ⅱ. 備品を大切に使用し、定期点検を行うことで事故や修繕の未然防止し安全で効率的な業務環境を維持するとともに、コスト意識向上につなげる。

5. 人材育成と組織力の向上

Ⅰ. 介護支援専門員試験等への挑戦を支援。外部研修への参加を推進することで専門性を高め職員の意欲向上を図る。

Ⅱ. 送迎研修を行い、安全運転と対応力の向上や職員の安心間を高める。

Ⅲ. 法定研修を計画的に実施し、事故・誤薬・不適切ケア・感染症対策及び緊急時の対応に関する事例共有や手順等の確認を行うことで、リスク管理体制の強化を図る。

Ⅳ. BCP（事業継続計画）に基づく研修・訓練を行い、感染症や災害が発生時にも職員が安心して継続的に必要なサービスが提供できる体制を整える。

Ⅴ. 体調不良や腰痛等の課題を踏まえ、福祉用具の活用、介助方法の再確認、業務分担の見直しを行い、身体的負担の軽減を図る。職員が無理せず、働き続けられる職場づくりを推進する。

I. 日中利用者数目標

単位：人

令和7年度目標利用人数 *令和6年度2月3月は見込み。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和7年度実績	19.9	18.7	19.8	19.5	19.0	19.4	19.4/日平均
月合計（人）	598	579	594	605	590	581	3,547
令和8年度目標	19.3	18.5	19.3	19.0	18.7	19.2	19.0/日平均
月合計（人）	580	575	580	590	580	575	3,480
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度実績	18.3	19.3	17.0	17.9	18.5	18.0	18.2/日平均
月合計（人）	568	578	528	554	520	560	6,855
令和8年度目標	19.3	18.5	19.3	19.0	18.7	19.2	19.0/日平均
月合計（人）	570	575	555	565	535	580	6,860

II. 令和7年度収支計画

（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和7年度収入	7,307	7,619	7,482	8,131	7,563	7,438	45,529
令和8年度収入計画	7,336	7,649	7,512	8,164	7,593	7,468	45,722
令和7年度支出	6,382	5,497	10,652	5,475	8,833	8,919	45,659
令和8年度支出計画	6,637	5,717	10,778	5,694	6,250	6,112	41,188
令和7年度収支差額	924	2,122	-3,170	2,656	-1,270	-1,481	-130
令和8年度収支差額計画	699	1,932	-3,566	2,470	1,343	1,356	4,234
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度収入	9,916※	7,115	7,000	7,100	6,700	7,200	90,715
令和8年度収入計画	7,012	7,143	7,028	7,128	6,727	7,229	87,989
令和7年度支出	6,238	8,542	10,750	6,600	6,600	6,700	88,478
令和8年度支出計画	6,479	6,074	11,180	6,864	6,864	6,968	85,917
令和7年度収支差額	3,677	1,273	-3,750	500	100	500	2,093
令和8年度収支差額計画	533	1,069	-4,152	264	-137	261	2,072
令和7年度と令和8年度計画の収入比率				97%増			
令和7年度と令和8年度計画の支出比率				97%増			
令和7年度と令和8年度計画の差額比率				99 %			

収入・支出・差額についての管理者意見

・マットレスや車椅子、施設備品の老朽化が見られ修繕が必要。光熱水費や介護材料費等、物価高騰続いており、引き続き支出が増えることが見込まれる。コスト削減や節約の意識をもち業務に取り組む。少しでも支出を抑えるべき部分は抑え、利用者様の生活に直結する部分から、修繕や備品の整備等、速やかに対処が必要となっている。

令和7年度12月・1月・2月・3月は見込み

以上

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所・通所介護医務

令和 8 年度 事業計画書

今年度は『職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用』をスローガンに、本館医務は ICT を活用した連携と情報共有を基盤とし、利用者一人ひとりに寄り添い、医療・看護の質の向上を目指す。

1. 生産性向上に向けた取り組み

- I. 記録時間の短縮化や ICT を活用したリアルタイムでの情報共有、確認・連絡に要する時間を削減し、対応の迅速化につなげる。
- II. 看護職員の ICT への適応には個人差がある。その不安や戸惑いを十分に理解した上で、操作研修や相談体制を職員間で話し合いながら整え、安心して ICT を活用できる環境づくりを進め、無理のない定着を図る。技術の習得を目的とするのではなく、業務負担軽減につながる活用を重視する。
- III. インカム導入にあたって、利便性向上のためのツールであり、業務を分断するものにならないよう、適切な運用ルール・コール基準を介護職と共に整備する。

2. 事故防止について

- I. 内服薬に関して、日常的に使用している『内服薬確認ファイル』を見やすく整備し、看護サマリーも常備して緊急時情報として兼ねられるよう 1 本化し、非常時にも備える。
- II. 足の爪切りを 1 か月に 10 人ずつ月初めの 1 週間で計画し、業務進行表と爪切り一覧表で管理し徹底させる。
- III. デイサービスの情報共有に関して、重要な情報は次の担当になる看護師に口頭とケース入力の両方で確実に伝わるようにする。

3. 感染予防について

- I. 要感染対応症状が出た際の初動が曖昧、不完全な対応とならないよう、物品管理の徹底を定期的に発信し、部署全体の意識づけをする。
- II. 感染対応開始直後の訪床時には設置に不備・不足が無いか必ず確認、補充・修正し、拡大防止に努める。

4. 虐待防止について

- I. ご利用者様の心に寄り添った看護を今後も一層推進するよう内部研修と年 2 回の研修参加・レポート提出を必須とし、個々の知識・理解力・対応力の向上を図る。

5. 医療連携について

- I. 嘱託医と共に、協力医療機関との顔の見える関係づくりを大切にし、定期的な情報共有と連携強化を図りながら信頼関係を深め、利用者様の状態変化に迅速に対応できる切れ目のない医療提供体制を構築する。

以上

魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

令和 8 年度 事業計画書

R8 年度経営スローガン

「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場作り～ICT 機器の活用」

今までのレクリエーションや体操、脳トレ、塗り絵等を選んで取り組んでいただくことは今後も続ける。今年度は ICT を活用し、事務作業を削減し、より利用者様と触れ合う時間、一緒に制作等に取り組む時間を確保し「利用者様と寄り添い繋がるデイサービス」を職員全員で作りに上げていく。

ワゴン R が 2 台ともワイヤー故障により車椅子の乗車が難しい状態になっている。10 年以上経過しており、9 万キロ近く走行している。修理代が年々増加している状況もあり、1 台は新車購入も検討しつつ、車いす送迎に関してはショートステイとも連携をとり SS クリッパーも使用し、キャラバン・クリッパーの乗車人数も増やした送迎を組むようにする。

1. 「安心で、楽しく元気になるデイ」を目指して

- I. 介護テクノロジー導入支援サービスを行うことで、AI を積極的に活用し雑務や事務作業時間を導入以前の半分以上の削減を目指す。その為に、タブレットやインカムの操作や取り扱いを全職員が理解しスムーズな運用を行う。使用方法・活用法について全職員が積極的に意見を出しあい、より効率的で安全な使用方法を全職員が考え発信していく。
- II. 昨年度までは人員不足で、レクリエーション担当が 1 名しか割り当てられず、レクリエーションがマンネリ化し、作業レクもじつくり行うことができなかった。事務作業を削減することで、今まで事務作業に割り当てていた職員を、レクリエーション補助とし、より幅広いレクリエーションに取り組んでいく。
- III. 昨年 10 月より取り組んでいる、5S 活動を今年度も継続的に行い、部署の整理・整頓・清潔・清掃を全職員が意識して行い、それを維持する。整理整頓前後の写真を撮り、月に一度行っている業務改善委員会で発表し、まずは介護部門の部署の 5S 活動が継続して行われるように発信し続ける。整頓された状態を維持することで、ムリ・ムダ・ムラをなくし、業務がスムーズに行えるよう清潔で整理された職場環境を常に意識し、職場環境改善を一人一人が取り組んでいく。
- IV. 喫茶の窓がブラインドになっており、西日が直接利用者様の顔にあたってしまうことが多いため、ブラインドをカーテンに変更し開け閉めをスムーズにおこなうようにしたい。

- V. お誕生日カードを毎月ごとに作成していたが、時間内での作成が難しく持ち帰って作成していた。今期は年間でフォーマットを作成し、簡素化することで時間内での作成できるようにする。

2. 採用と育成・定着

- I. デイサービス職員は現在運転手も含め 12 名で定着している。今後も今いる職員が「これからも続けていきたい」と思える職場であるよう、相談員は残業なし、いつでも有給希望が出せる環境を整え、いろいろな意見が言い合える風通しのいい職場環境作りを現場リーダー中心に組織作りを全員で行う。
- II. 部署研修に出られなかった職員に対して、リーダーを中心に部署で研修を行い、全職員が研修を受ける。
- III. 少数精鋭で対応出来るデイサービスを目指し、常勤・非常勤問わず接遇や介護技術、利用者獲得に向けての外部研修があれば積極的に参加するようにする。
- IV. 職員の無資格者に対して、必須となる認知症介護基礎研修への受講を行う。また、必要となる認知症研修等の研修へ常勤・非常勤関わらず参加できるよう、勤務調整や業務調整を行う。
- V. 虐待防止研修、身体拘束研修を全職員が年 2 回受け、レポートを提出する。
高齢者虐待における虐待定義（暴言、暴力、ネグレクト）、不適切ケア（スピーチロック、声掛けや同意のない一方的なケア）、等の知識や技術を習得し、常に高齢者虐待に対し「自分もしてしまう可能性がある」という事を忘れないよう、常に発信する。
- VI. 感染症や災害が発生した場合においても、継続して利用者に必要なサービスを提供する事業継続計画(BCP)の体制を作り、職員への研修を行い、1 年に 1 回実践訓練を行う。

6. 利用者目標人数と目標収支差額

令和 8 年度目標人数 （単位：人） ※令和 7 年度 2 月、3 月は見込み

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
R7 年度実績	23.8	24.2	25.8	24.3	22.4	21.6	23.7/日平均
月合計（人）	620	654	646	657	583	563	3,723
R8 年度目標	23	23.3	23.6	24	24.6	25	23.9/日平均
月合計（人）	600	630	590	650	640	650	3,760
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R7 年度実績	23	22.7	22.2	23.1	22.5	21	23/日平均
月合計（人）	622	567	578	555	540	560	7,145
R8 年度目標	24	24	23	22.9	23.7	23.8	23.7/日平均
月合計（人）	650	600	600	550	570	620	7,350

令和 8 年度目標収入 （単位：千円）※令和 7 年度 12 月 1 月、2 月、3 月は見込み

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入実績	6, 326	6, 397	6, 308	6, 660	5, 750	5, 322	36, 766
令和 8 年度収入計画	6, 400	6, 400	6, 400	6, 700	5, 900	5, 900	37, 700
令和 7 年度支出実績	4, 517	4, 492	6, 308	4, 059	7, 792	7, 610	33, 335
令和 8 年度支出計画	4, 300	4, 300	6, 300	4, 000	7, 000	5, 000	30, 900
令和 7 年度収支差額	1, 754	1, 905	-420	2, 601	-2, 041	-2, 288	3, 430
令和 8 年度収支差額計画	1, 400	1, 300	-600	1, 700	- 1, 100	900	

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入実績	8, 601	5, 530	5, 500	5, 400	5, 000	5, 300	72, 097
令和 8 年度収入計画	5, 900	5, 800	5, 800	5, 900	5, 700	5, 900	72, 700
令和 7 年度支出実績	4, 558	4, 363	6, 400	4, 600	4, 500	4, 700	62, 456
令和 8 年度支出計画	4, 300	4, 200	7, 000	4, 500	4, 500	4, 600	60, 000
令和 7 年度収支差差額	4, 043	1, 167	-900	800	500	600	9, 641
令和 8 年度収支差額計画	1, 300	1, 600	-1, 200	1, 400	1, 200	1, 300	12, 700
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				100. 8 %			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				96. 1 %			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収支差額比率				131. 7 %			
収入・支出・収支差額についての管理者意見							
利用者数の増加は今も厳しい状態ではあるが、職員数も増やすことなく少数精鋭での経営を行うことで、赤字にはならず経営できている。エレベーター2 号機機能維持工事、8 月 2, 750 9 月 2, 750（単位：千円）による支出増、10 月に補助金が入り 2, 750（単位：千円）収益増となっている。							

以上

フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

令和8年度 事業計画書

「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」をスローガンに、ICT の活用とチームケアの強化に取り組んでいく。記録ソフトやスマートフォン等を活用し、職員がスムーズに情報共有できる体制を整えていく。業務の効率化により確保できた時間を自立支援の推進および余暇活動の充実に充て、入居者様と職員がともに関わり合える活動を充実させる。これにより生活の質の向上と職員のやりがい向上を図り、職員定着率の安定化を目指す。

1. ICT 活用によるケアの質向上と業務の効率化

- I. 記録ソフト・スマートフォン・眠りスキャン・ほのぼのボイスを活用し、操作方法や記録方法の統一を図ることで、情報共有の敏速化と正確でわかりやすい記録を目指す。
- II. 日々の生活状況や体調変化をリアルタイムで確認することで、職員間の連携強化と事故予防につなげる。
- III. ICT 活用により記録業務や情報共有に要する時間を削減し、確保した時間を入居者様の残存機能を活かした家事参加（調理・洗濯・掃除等）や個別の外出支援、趣味活動の充実に充てる。

2. 入居者様の健康維持と生活の充実

～入居者様一人ひとりの「できること」「好きなこと」を大切にし、その人らしい暮らしが継続できるよう支援する～

- I. 日々の健康管理（体操・口腔体操・散歩・家事参加）を継続し、残存機能の維持向上を図る。
- II. 認知症の進行予防を意識し、役割づくりや少人数での活動を取り入れ、安心して過ごせる環境を整える。
- III. 担当職員を中心に月1回以上のケース会議と定期的な振り返りを行う。
- IV. 季節行事や外出・外食・買い物等、日常に楽しみを提供する。秋に他部署と合同のバスハイクを企画する。
- V. 地域とのつながりを深める取り組みとして、美容ボランティア（ネイル・ハンドマッサージ・メイク）や交流活動を取り入れ楽しみを増やす。
- VI. 感染対策を継続しながらご家族との面会や外出を行う。また、自宅への一時帰宅をしていただけるよう検討したい。

3. 入居者様の安定的確保。選ばれるホームづくり

～入居者様が「ここで良かった」と感じ、ご家族が「ここなら安心」と思える
あたたかいホームを目指す～

- I. 入居者様一人ひとりのこれまでの歩みや、大切にされてきた思いを尊重し、その人らしく穏やかに過ごせる毎日を支える。
- II. なつかしい写真や映像、音楽に触れながら思い出を語り合う時間を作る。回想法で安心感を高める。
- III. 日々の様子や思い出を語られた場面等をご家族へお電話やご面会の際に丁寧にお伝えし、ともに喜びを分かち合える関係を築く。
- IV. 見学希望時、見学時は明るく笑顔で親切丁寧にご案内を行う。また、見学対応マニュアルに沿ってグループホームの現状や情報をわかりやすく説明。管理者以外もしっかり説明ができるように日頃より情報の共有を行っておく。
- V. 他部署と連携を行う。入所判定会議や運営会議時にグループホームの現況を伝え、入居希望者の情報を得る。
- VI. 他部署と合同の入所判定会議を実施し情報を共有する。
- VII. ADL 低下時、介護認定の変更申請を速やかに実施。介護が重度化し職員の負担過多とならないよう、適時転居検討を実施。

4. 業務改善・人材育成

- I. 認知症ケアのプロとして、接し方・対応の仕方、精神的ケアを全職員が認識し、常に安心感を与える対応を徹底する。
 - II. 認知症研修と職員会議を(6月9月12月・3月)、正職員会議を(4月1月)に実施し、認識の強化・意欲の向上・ケアの統一・スキルアップを行う。
 - III. 週1回の内部研修に参加出来るよう、予め業務の調整を行う。研修受講職員は、他の職員へ受講内容を毎日の申し送り時に発信し、全員が把握できるようにする。
 - IV. BCPに基づき感染症や災害が発生時も入居者様に必要なサービスが継続して提供できるよう、体制作りや研修を実施。また、災害や感染症に備え、感染予防物品は感染委員が確保、確認・点検を行い、他職員へ発信する。
 - V. 職員がハラスメントを理解・意識できるよう研修を実施。働きやすい職場を構築。
 - VI. 介護支援専門員・介護福祉士・実務者研修等資格取得を推進する。
 - VII. 職員がハラスメントを理解・意識できるよう研修を実施。働きやすい職場を構築。
 - VIII. 虐待防止研修、身体拘束研修を全職員が年に2回受け、レポートを提出。暴言暴力・ネグレクトや不適切なケアとしてのスピーチロック・声掛けや同意のない一方的な介護、手荒い移動や移乗、手荒い排泄介助時の更衣作業など起こりえる虐待行為を防ぐために毎日の申し送り、ケース会議やフロア会議時に「なぜ虐待がおこるのか」意見交換を行う。
- また、法令に基づく各種法定研修を計画的に実施。具体的には以下の事項について、体制整備および研修を行い、職員の知識・技術の向上を図る。
- 「虐待防止研修、身体拘束適正化研修、感染症対策研修、BCP(感染症・災害)に関

する研修、ハラスメント防止研修、個人情報保護研修、新入職員研修。」

5. 生活環境整備

- I. 館内照明を LED へ更新し、やわらかく見やすい明るさを確保する。省エネ化を図りながら転倒予防や安心感の向上につなげる。
- II. 老朽化した備品や設備は計画的に点検、更新を行い、清潔で気持ちよく使える環境を整える。必要性を見極めながら無駄を抑え、長く大切に使う意識を共有する。
- III. 季節の飾りや掲示物、共有スペースの整頓を行い、家庭的でぬくもりのある空間を作る。
- IV. 業務改善委員会を中心に居室や共有スペースの整理整頓を行い、不要物は廃棄する。

6. 年間稼働率

(単位%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
R7 年度実績	100	99.3	100	99.5	98.7	98.5	99.8	99.2	92.8	94.8	(95)	(100)
R8 年度目標	100	100	100	99	99	99	100	99	98	98	99	100

7. 令和 8 年度収支計画

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入実績	6,773	6,762	6,688	7,440	6,904	6,526	41,093
令和 8 年度収入計画	6,800	6,800	6,800	7,500	7,000	6,700	41,600
令和 7 年度支出実績	5,302	5,205	9,314	5,478	5,891	5,382	36,572
令和 8 年度支出計画	5,200	5,200	9,400	5,300	5,800	5,500	36,400
令和 7 年度収支差額	1,471	1,557	-2,626	1,962	1,013	1,144	4,521
令和 8 年度収支差額計画	1,600	1,600	-2,600	2,200	1,200	1,200	5,200

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入実績	6,892	6,549	(7,000)	(6,800)	(6,800)	(7,200)	(82,334)
令和 8 年度収入計画	6,900	6,540	7,200	7,000	7,000	7,200	83,440
令和 7 年度支出実績	5,526	5,094	(7,500)	(6,200)	(6,000)	(6,500)	(73,392)
令和 8 年度支出計画	5,400	5,000	7,500	6,000	5,800	5,500	71,600
令和 7 年度収支差額	1,366	1,455	-500	600	800	700	8,942
令和 8 年度収支差額計画	1,500	1,540	-300	1,000	1,200	1,700	11,840
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				101.3%			

令和7年度と令和8年度計画の支出比率	97.5%
令和7年度と令和8年度計画の収支差額比率	132.4%
収入・支出・収支差額についての管理者意見 今年度は現在の安定した稼働状況を大切にしながら、他部署との連携をさらに深め、入居調整を丁寧かつ敏速に行うことで安定した収入確保と収支差額の改善に努める。光熱費や消耗品についても無理のない範囲で無駄のない使用を心掛ける。入居者様が安心して笑顔で過ごせる環境を第一に、職員一同前向きに取り組み、安定と質の向上の両立を図っていく。	

8 年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重点目標	接遇強化 散歩日光浴 強化	接遇強化 散歩日光 浴強化	接遇強化 食中毒予 防	接遇強化 食中毒予 防	事故防止 熱中症予 防	事故防止 熱中症予 防
研修・会議	感染症研修 正職員会議	認知症研 修 身体的拘 束適正化 研修 GH会議	身体的拘 束適正化 研修 食中毒研 修 GH会議	感染症実 技研修 身体的拘 束適正化 会議	認知症研 修 事故防止研修 GH会議 第三者評 価	感染症研 修 身体的拘 束適正化 会議 GH会議
待機者確保	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点目標	接遇強化 散歩日光浴 強化	感染症予 防 散歩日光 浴強化	感染症予 防	感染症予 防 接遇強化	事故防止	接遇強化
研修・会議	感染症研修 認知症研修 家族会	褥瘡予防研修 身体的拘 束適正化 会議	身体的拘 束適正化 研修 GH会議	感染症研 修 身体的拘 束適正化 会議 正職員会 議	認知症研 修 事故防止研修	身体的拘 束適正化 会議 GH会議
待機者確保	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議	入居判定会議

以上

介護型ケアハウス サンライフ魚崎

令和8年度 事業計画書

「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場作り～ICTの活用～」スローガンにICTの導入を通じて記録ソフトやインカム・スマートフォンを使用し職員一人ひとりがよりスムーズに情報を共有できる体制を構築する。業務の最適化によって生まれた時間を、入居者様への丁寧で心のこもったケアに還元し、より安心して快適な生活を支援する。

また、ICTの力を活かして、入居者様の健康状態や日々の様子を家族様とも共有し、施設とご家庭が一体となって支え合う関係を深めていく。

「自分の行動が施設全体の改善につながる」という意識を全職員が持ち、チームワークと創意工夫を大切にしながら、誰もが笑顔で過ごせる清潔で温かく、進化し続けるケアハウスを目指す。

1. 入居者様の健康増進・生活支援の充実

- I. 入居者様個別の活動目標を毎月設定・振り返りを行う。健康データ（睡眠時間・活動時間・体重・血圧など）を毎月確認し、個別の活動目標と照らし合わせながら、生活リズムや運動習慣の改善を図る。
- II. 各階各フロアにインターネット対応のテレビを順次設置し、YouTube等のオンラインコンテンツを活用し、天候や体調に応じて屋内でも日光浴や軽運動に代わる活動（ストレッチ・体操・リラクゼーション動画視聴など）を実施できるようにする。毎朝のラジオ体操に加えて、午後に10分程度の健康体操が毎日できるよう習慣化していきたい。
- III. 余暇活動企画日として毎週火曜日・水曜日は手作業・書道・散歩等を計画する。入居者様が日光に当たる事を重視し、散歩や日光浴の頻度を増やすように工夫する。散歩時には、スマートフォンを活用して季節の風景や地域の様子を写真・動画で記録し、後日レクリエーションの時間に振り返ることで、入居者様同士の交流や会話のきっかけづくりにもつなげる。
- IV. 引き続き毎月第1・2・4週目の木曜・金曜日に音楽療法講師による音楽療法を行う。また毎月第3月曜日にハーブセラピー講師をお招きし、希望される入居者様個別に演奏をしてもらう。
- V. 感染症状況を見ながら、6月から7月初めにグループホームと協働で「ICT活用型バスハイク（オンライン中継含む）」を企画する。
- VI. 入居者様に協力をお願いし、職員と共に「清潔で快適な住環境づくり」を推進する。可能な入居者様においては居室内の整理整頓を一緒に行う「クリーンデー」を月1回設定し、職員がサポートしながら入居者様自身の生活空間を整える機会を設ける。これにより、入居者様の自立支援や生活意欲の向上につなげる。

2. 入居者様の安定的確保・感染防止

- I. 毎月1回以上、施設の取り組みや行事、入居者様の活動の様子をブログや写真付きニュースとして更新し、施設の「今」を発信する。また入居希望者やご家族が安心して選べる施設として、感染症対策・衛生管理・ICT活用の取り組みをホームページ上で「見える化」し、透明性を高める。
- II. 感染症流行時や遠方のご家族にも対応できるよう、オンライン見学・オンライン相談を導入する。
- III. 施設紹介動画や360度カメラによるバーチャルツアーを制作し、ホームページ上でいつでも閲覧できるようにする。
- IV. サンライフ居宅・魚崎北部あんしんすこやかセンター・サンライフさくら魚崎北町と1～2か月毎に情報交換を行い、地域の高齢者支援情報を共有する。

3. 魅力ある職場作り・業務改善

- I. 介護福祉士受験予定者が施設内対策講座の受講・自己学習ができるよう勤務調整を行う。
- II. スマートフォン・インカム・眠りスキャン・見守りカメラ・AIを活用し、業務の効率化・職員の負担軽減を図る。
- III. 業務改善委員会を中心に5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を推進する。特に食堂・ケアステーションは整理整頓を徹底し、常に清潔で安全な環境を維持する事で、だれが見ても好感が持てる施設にする。また各階ケアステーションの床・壁紙の更新、カウンターの修繕等、老朽化している箇所を綺麗にする。
- IV. 家族向けアプリを導入検討し、日々の生活記録・写真・健康情報を共有し、家族様の安心感と信頼関係を繋げる。
- V. 年間計画に沿って必要な研修を実施する。年間研修計画に「AI・ICT活用研修」を追加し、職員全員がAIやICTに関する知識を深められるようにする。
- VI. 相談員・リーダーを中心にAIを活用し、外国人職員向けに緊急時等の多言語マニュアルを整備する。

4. その他

- I. 春から夏にかけて各階食堂の蛍光灯をLEDに更新し、省エネで明るい施設にする。
- II. 入居者様の状態が重度化傾向にあるため、ティルト式車椅子の購入（3台程度）ベッドマットレスの更新を検討する。
- III. 居室・共用部のエアコンが使用20年を超え、修理もしくは更新になるケースが増えてきている。既存建築物省エネ化推進事業の補助金申請の検討をしつつ、3～5台程度計画的に更新する。
- IV. シャワーチェアや滑り止めマットなどの浴室関係備品が老朽化しているため、順次新しいものに交換を行う。

5. 年間稼働率

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
令和 7 年度 (実 績)	97.8	99.3	99.3	95.5	97.8	98.8	99.9	96.2	98.7	96	(96.5)	(98.0)	97.8
令和 8 年度 (目 標)	99.0	99.0	98.5	98.5	98.5	98.5	99.0	99.0	98.5	97.5	98.5	98.5	98.5

6. 収支計画

令和 8 年度収支計画

(単千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入実績	19,838	21,262	20,357	21,205	20,516	19,988	123,166
令和 8 年度収入計画	20,250	21,750	21,000	21,250	21,000	21,000	126,250
令和 7 年度支出実績	17,719	13,930	25,945	13,801	15,469	14,454	101,318
令和 8 年度支出計画	15,500	14,000	25,700	13,500	15,000	14,500	98,200
令和 7 年度収支差額	2,119	7,332	-5,588	7,404	5,047	5,534	21,848
令和 8 年度収支差額計画	4,750	7,750	-4,700	7,750	6,000	6,500	28,050

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入実績	20,657	21,167	(21,500)	(21,000)	(18,000)	(21,000)	(246,490)
令和 8 年度収入計画	21,250	21,000	22,500	21,250	18,750	21,000	252,000
令和 7 年度支出実績	15,596	13,841	(26,000)	(15,000)	(13,500)	(14,500)	(199,755)
令和 8 年度支出計画	15,300	14,500	26,000	14,500	13,500	14,000	196,000
令和 7 年度収支差額	5,061	7,326	(-4,500)	(6,000)	(4,500)	(6,500)	(46,735)
令和 8 年度収支差額計画	5,950	6,500	-3,500	6,750	5,250	7,000	56,000
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率	102.2%						
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率	98.1%						
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収支差額比率	120%						

収入・支出・収支差額についての管理者意見

入居者様の健康を促進し空床が出ないようにする事またケアハウスの魅力を発信し入居者様を安定的に確保することで稼働率のアップを目指す・ICT の活用により業務の効率化・不要な管理物を削減し支出を抑制する。

7. 年間活動計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
重点目標	感染症予防	施設美化	事故防止	施設美化	熱中症予防	施設美化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
	職員会議 フロア会議		AI・ICT 研修	職員会議 フロア会議		
利用者確保	HP 更新	HP 更新	事業所訪問 案内配布	HP 更新	HP 更新	事業所訪問 案内配布
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
重点目標	腰痛予防	施設美化	感染症予防	施設美化	感染症予防	接遇強化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
	職員会議 フロア会議		AI・ICT 研修	職員会議 フロア会議		
利用者確保	HP 更新	HP 更新	事業所訪問 案内配布	HP 更新	HP 更新	事業所訪問 案内配布

以 上

介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

令和8年度 事業計画書

<スローガン>

「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT機器の活用～」

<方針>

1. 入居者様の健康管理

- 1) 入居希望者様との面接に同席し、生活上の医療的な問題の把握に努める。
- 2) 入居者様の体調確認を行い、受診の必要がある場合は速やかに医療機関へつなぐ。日頃より異常の早期発見、早期治療に努め、なるべく入院日数を減らす。
- 3) 毎月医療連携報告書を主治医へ提出し、医師と看護師の情報共有を行う。
- 4) 歯科医師指示の下、歯科衛生士による口腔ケアを2カ月に1回は実地出来るよう計画し歯科衛生士との情報共有を行う
- 5) 褥瘡予防の取り組みを行う。栄養状態の管理、除圧の工夫、スキンケアに職員全員で取り組む。必要時皮膚科往診を依頼し処置を行う。
- 6) 転倒予防の取り組みを行う。転倒リスクのアセスメントを行い、環境整備、センサーマット・見守りカメラ・福祉用具の活用により職員全員で転倒予防に努める。転倒時のカンファレンスには積極的に参加し再転倒が起こらないよう尽力する。常に転倒要因について考え、職員にも教示する。
- 7) 筋力維持、向上の為に職員によるリハビリを推奨し、必要であれば個別に適したリハビリを職員全体で検討していく。
- 8) 足の爪のトラブルを予防する。定期的に爪切りを行い、肥厚して切りにくい爪は皮膚科医師のフォローを検討する。

2. 感染対策

- 1) 手洗い、うがいを徹底し感染経路の遮断を行う。
- 2) 感染者が出た場合は感染を拡大させないよう、居室対応を行い、速やかに医師へ連絡し指示を仰ぐ。
- 3) 感染対応物品が定位置に定数あるよう使用後確認していく。

3. 看取りの対応

- 1) 入居時に危篤時の対応について入居者様・ご家族様へ意思を確認しておく。
- 2) ご家族様や医師への状態報告を密に行い、適切な時期に看取り同意書の説明と

同意を得る。

- 3) 家族様の中には看取りについて不明瞭である場合が多く、その都度状態に合わせてお話する。必要な際は医師の説明を受けられるよう取り次ぐ。
- 4) ご本人、ご家族様の意向に沿って、最期まで安楽に過ごせる為の支援を行う。
- 5) 虐待防止の観点から、入居者様の心配や不安に耳を傾け、優しく丁寧な看護に今後も一層努力していく。

4. ICT 化推進

- 1) ICT 機器の導入で生産性がどれほど上がるか未知数なため、機器に慣れるためにも勉強会に参加し積極的に活用していく。

5. 看護職員の健康管理

- 1) 1 名が病気療養のため 3 ヶ月程度休職する。そのため 2 名での勤務になり負担が増す。業務内容を検討し、勤務時間内に仕事が終わるよう配慮する。
- 2) 健康推進の為、連休や有給休暇が取れるよう勤務シフトを作成する。
- 3) 悩みや相談を言いやすい関係づくりに努め、風通しの良い働きやすい環境を作る。

以上

サンライフ魚崎（厨房）

令和 8 年度 事業計画書

今年度は、ささゆり会の経営スローガンである『職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT機器の活用～』を実現させるため、ICTの活用及び作業工程の簡素化、厨房職員の人材育成を重点に置き、利用者様・入居者様に好まれる安心・安全・美しく・美味しい食事の提供を目指す。

また、課題である人員不足・食材料費高騰に向けた対策の検討を行う。

1. 人材育成方法の見直し・職員の定着

I. 昨年度は職員の入職はあるものの定着に繋がらなかった。要因の 1 つとして入職者が未経験者の場合、入職前のイメージと実際の業務内容にギャップを感じることもあると思われる。対応策として①見学时に具体的な業務内容をある程度説明する②入職後も個人の適性や事情等を考慮し、既存の作業工程について弾力的な運用を行う③一定期間教育担当者が新人のフォローを徹底できるような体制作りを行う、などの取り組みを通して人材の定着を図りたい。

II. 個人で出来る仕事の幅を増やしていくことで、より安定してかつ、効率的に業務が回るようにしていくことを目指す。また、基礎的な給食業務・衛生面の知識の教育は継続して行い、事故防止を図る。

III. 昨年度に引き続き、早出の人員が安定して確保されるまでの間、朝食の提供内容を一部簡易化（粥食に提供していた汁物調理の中止）。早出が 1 名しか確保できない場合には業務開始時間を 1 時間早めて対応していく。昼食と夕食については業務内容を見直し、少人数でも業務を回せるよう工夫を行う。

IV. 調理員の増員・人材の確保に努める。勤務時間帯を問わずフルタイムでの勤務が可能な調理師を 1 名増員したいと考える。

V. 職員同士で意見や要望を言い合える場を作る為、昼礼の実施を継続していく。

従来の開始時間では、時間に追われる調理業務の最中であり、継続的な実施に至らなかった。なるべく多くの職員が勤務している時間帯、かつ実施しやすい時間に変更し、継続に努める。時間に追われる中での意見の発信が難しいと思われるため、あらかじめ随時意見を記入できるようアンケート用紙を設置し、昼礼で取り上げるようにする。

2. 衛生管理の徹底

清掃記録表を作成し、清掃した場所や日時を簡便に記録する。清掃頻度の目安を明示し優先的に清掃すべき場所を分かるようにする。

3. 食材価格高騰に対する対策

食材費について、献立作成の時点で予想食単価をなるべく正確に把握できるようにし、安定した食単価での運営を図る。必要食材費については随時見直しを行う。また、献立ソフトのマスター上で食材費の更新を漏れのないよう行い、使用頻度と使用量を考慮の上、食単価の影響が大きい献立や食材は業者選定や代替食材の検討を行う。

4. ICT の活用

ラウンド時のスマートフォン使用、会議時の PC 使用により業務の効率化を図る。

5. 美味しい食事の提供

献立は単調にならないよう工夫を行い、喜んでいただける食事提供を目指す。職員の技量向上・人員不足の解消を目指し、改善の兆しがあれば現在中止している食事レクや松花堂弁当週間・職員給食日の拡大について再開も検討していく。

以上

サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

令和 8 年度 事業計画書

今年度の法人経営スローガン「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ＩＣＴ機器の活用～」に沿ってケアマネジメントを行い、昨年に引き続き黒字をできるだけ増やす方向で進めていきます。令和 6 年 4 月の介護報酬改定に伴った対応ができるようにします。

Ⅰ. 感染症や災害への対応力強化

B C P（事業継続計画）を備えたマニュアルを確認し、訓練も行っています。

感染症や災害の発生した場合であっても、日頃から地域にある介護サービス事業所や福祉用具事業所と密に情報交換をすることにより、利用者様に必要なサービスを継続的に効率よく提供できるようにします。本年もケアマネロッカーに災害時、持ち出し可能な名簿を作成保管し、速やかに災害時の安否確認が出来るようにします。

Ⅱ. 適正なケアマネジメントを行います

- ① 退院・退所時カンファレンスにおける福祉用具専門相談員等を必要に応じ、参画することを明確にします。
- ② 看取り期でのサービス利用前の相談、モニタリングの評価を行い、本人の意思を尊重した支援に結び付けます。
- ③ 昨年 6 月の神戸市指導監査で口頭指導があり、今年度は次のように取組みます。
サービス担当者会議録の事業者への配布、主治医との連携をしっかりとること、変更申請をかけた方への暫定ケアプランを適時行う事、加算を取っていることについては加算要件をしっかりと行っています。

Ⅲ. 研修・その他

- ① 研修は各ケアマネジャーが自分で考え、積極的に ZOOM により受講していきます
- ② 高齢者虐待、ハラスメント、困難事例等、人権尊重に基づいたケアマネジメントについて地域包括支援センターと連携をはかり、早めに対応していきます。
- ③ 今年度は主任介護支援専門員が二人となりました。今後特定事業所加算をとれるように準備していきます、

収支計画（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入実績	1572	1426	1458	1450	1468	1485	8860
令和 8 年度収入計画	1500	1500	1500	1500+	1500	1500	90000
令和 7 年度支出実績	1380	1100	2737	1076	1218	1222	7404
令和 8 年度支出計画	1180	11801	2800	1180	1180	1180	8700
令和 7 年度収支差額実績	192	326	-1279	374	250	263	126
令和 8 年度収支差額計画	320	320	-1300	320	320	320	-100
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入実績	1526	1503	1500	1500	1500	1500	17889
令和 8 年度収入計画	1500	1500	1500	1500	1500	1500	18000
令和 7 年度支出実績	1296	1192	2800	1180	1180	1180	14612
令和 8 年度支出計画	1180	1180	2800	1180	1180	1180	17400
令和 7 年度収支差額	230	311	-1300	320	320	320	327
令和 8 年度収支差額計画	320	320	1300	320	320	320	-200
収入前年度比	100.6%						
支出前年度比	119.1%						
収支差額前年度比	-61.1%						

管理者意見

令和 6 年度より担当件数が 45 件となり、支援を滞りなく行い利用者数もできるだけ担当できるよう努力いたします。

魚崎北部あんしんすこやかセンター

(地域包括支援センター)

令和 8 年度 事業計画書

経営スローガン

「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT 機器の活用～」
「全職員の専門力を生かし連携して、楽しく生活できるよう支援する！」

令和 5 年度より、お店、銀行、病院、介護事業所等多くある甲南商店街を安心して利用できるように、立ち寄れる場所や情報を入手できる場所を増やすプロジェクト甲南ネットワークで、地域の人やお店の人達とイベント開催し、高齢者の相談窓口、認知症対応、防災について、高齢者だけでなく、子供や子育て世代にも広報してきた。

令和 7 年度は、甲南商店街にて「ゆるーくつながるお楽しみ会」を 2 回開催し令和 8 年 3 月にも開催予定である。地域包括の情報を提供できた。令和 8 年度も、このネットワークで、地域の人達、商店街、コープ甲南、介護事業所、病院、薬局等と連携し、色々なことを情報発信し、少しでも安心して過ごせる町になるよう目指したい。

令和 7 年度、高齢者の相談窓口やフレイル予防など早期から関わることを、圏域内の全世帯に知って頂けるように、チラシを作成し全戸配布した。

北青木地域では、月 1 回シニア元気相談会を通し、相談対応やフレイル予防体操を実施できた。6 月と 9 月に介護予防イベント開催した。10 月「防災について」地域ケア会議の事前打ち合わせを実施し、防コミと地域の人で、防災について話し合いを行い、11 月北青木の防災についての地域ケア会議を開催した。

令和 7 年度は、老人会などに、「フレイル予防支援事業について」広報し、少しフレイルとなった地点で地域包括支援センターに相談してもらい、フレイル予防支援事業 6 カ月間利用し、元の生活に戻れるように支援する取り組みを勧めた。

今年度も、広報ルートや出張相談会を上手く活用し、発信や活動していきたい。

魚崎北町の校北公園で令和 4 年 5 月より毎週水曜日 9 時半よりラジオ体操を開催している。今年度も継続し、フレイル予防や情報提供を継続していきたい。

相談、フレイル予防支援、認知症施策、ひきこもり・8050 関連施策との連動、こども若者ケアラー、包括的連携、虐待、困難事例、成年後見、ケアマネ支援、見守り、緊急対応、地域診断、災害への取り組み、つどい場の後方支援、地域ケア会議、介護リフレッシュ教室、イベント企画等、多種多様な対応を求められているが、常にセンター内で情報共有し、感染防止策を検討し、職員一同で助け合って乗り切る。

介護予防ケアマネジメント件数が、昨年3月より今年1月現在で、受託が9件増え、委託が15件増えている。令和8年度も、さらに10件増を目指す。

企画イベント回数、記録の短縮、業務の簡素化や効率化を図り、定時退社を目指す。体操や研修で、足腰頭と心を鍛えて、職員の健康維持増進を目指す。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

つどい場・介護リフレッシュ教室・給食会・相談対応・地域の掲示板や配布等で消費者被害注意喚起の広報をする。圏域内で消費者被害の被害情報が入った際は、民生委員や防犯担当役員に報告し、内容が目新しいものであったり、深刻なものについてはチラシを作成し、地域に配布する。

虐待予防パンフレット「家族を支えるあなたへ」は令和8年度も、引き続き活用していきたい。家族からの新規相談の際は必ず配布する。

成年後見制度については、介護事業所や地域住民に広報していく。

2. 認知症の人にやさしいまちづくり条例の推進

(令和7年度は神戸市から認知症高齢者声掛け訓練開催経費1万円あり)

令和7年度は、認知症声掛け訓練を実施した。

また「プロジェクト甲南」ネットワークで、甲南商店街でイベント開催時に、ブースを設置し、地域包括の広報や認知症の対応等広報した。令和8年度もイベント開催時に実施し、認知症の人や高齢者が安心して暮らせるやさしいまちづくりを目指す。

3. 健康寿命延伸の推進に関する業務 (令和5年度神戸市から85万円の委託料あり)

介護予防普及啓発事業「元氣いきいき講座」をR8年度は、年1回開催予定。北青木地域の自治会役員との共催の形で実施できることを目指す。

魚崎北町の高齢化率の高い地域の公園でラジオ体操の定期的開催を継続する。

令和7年度下半期から神戸市のフレイル改善通所サービスへの案内が強化された。その動きに呼応して、適切にフレイル改善通所サービスその他の支援につなげていきたい。

4. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議等を開催していく。

(神戸市から最大50,000円開催経費支援あり。)

・地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議を開催していく

第1回目7月 「北青木地域の防災への取り組みについて」を共有し、地域住民に防災への意識を高め、備えていただくにはどうしたら良いか検討する動きを継続する。北青木の防災については防災をテーマに地域が「つながること」を重視する。

第2回目10月 プロジェクト甲南ネットワークで、ボランティア、甲南商店街のお店、医療、介護が連携し、甲南地域で、楽しく情報を得られるイベント開催を行っ

ている。甲南地域で、イベントを継続できるように、支援者の負担を軽減し効率的に取り組める仕組みを考えることは継続。ボランティアの主体的な動きはますます活発にはなっている。今後もその動きを広げられるような地域ネットワークづくりに地域ケア会議を実施する。

第3回目 1月 個別事例検討会開催（必要性があるときは時期を問わず実施）

・**地域別連絡会（ケアマネ支援）**

・「東灘区あんしんすこやかセンター」と「医療介護サポートセンター」合同にて、センター主催、ケアマネ支援研修会を年4回開催する。

第1回目 7月 医療と介護の連携について

第2回目 9月 成年後見制度について

第3回目 11月 口腔内研修

第4回目 1月 障害者サービスと介護保険適用に関する情報交換会

・**地域内の事業所やケアマネのレベルアップと連携を図る目的で事業者連絡会開催。**

第1回目 8月 居宅介護支援事業所のケアマネジャー座談会

成年後見制度改正が令和8年度の通常国会で決まるので、その時期に合わせて、連絡会を開催も予定したいが、時期によって、来年度開催に変わる可能性あり。

5. 地域のつどい場

外出の機会が減り、フレイルの進行が懸念される独居高齢者世帯や老々世帯などが、地域に出掛けられるように支える。また、シニアクラブや地域のつどいばなどの活動があり、情報提供行い地域資源として後方支援を行う。

ふれあい喫茶は当法人主催での取り組みであるが、再開の工夫や規模縮小など考えて、今後も再開の検討を行っていく。

・**介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高18万円委託料あり。**

介護者を対象にした介護リフレッシュ教室（年5回開催予定）

第1回目 4月 茶話会

第2回目 6月 音楽鑑賞

第3回目 9月 フラワーアレンジメント

第4回目 11月 茶話会

第5回目 1月 体操（イスヨガ）

6. 令和 8 年度 収支計画

・ 令和 8 年度 収支計画【神戸市からの委託料（5 月一括入金）及び介護予防費含む】

※5 月 8 月 12 月 神戸市の委託料収入あり (単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 7 年度収入実績	1, 073	25, 067	953	908	894	941	29, 838
令和 8 年度収入計画	1, 100	25, 000	940	940	940	940	29, 860
令和 7 年度支出実績	2, 133	2, 182	4, 149	2, 036	2, 241	2, 089	14, 830
令和 8 年度支出計画	2, 100	2, 100	4, 150	2, 100	2, 100	2, 100	14, 650
令和 7 年度収支差額	-1, 060	22, 885	-3, 196	-1, 128	-1, 347	-1, 148	15, 006
令和 8 年度収支差額計画	-1, 000	22, 900	-3, 210	-1, 160	-1, 160	-1, 160	15, 210

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 7 年度収入実績	892	926	920	920	920	920	35, 336
令和 8 年度収入計画	940	950	950	950	950	950	36, 000
令和 7 年度支出実績	2, 001	2, 056	4, 150	2, 100	2, 100	2, 100	29, 337
令和 8 年度支出計画	2, 100	2, 100	4, 150	2, 100	2, 100	2, 100	29, 300
令和 7 年度収支差差額	-1, 109	-1, 130	-3, 230	-1, 180	-1, 180	-1, 180	5, 997
令和 8 年度収支差額計画	-1, 160	-1, 150	-3, 200	-1, 150	-1, 150	-1, 150	6, 250
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収入比率				101 %			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の支出比率				99 %			
令和 7 年度と令和 8 年度計画の収支差額比率				104 %			
イベントや事務消耗品等の支出を必要最小限にとどめ、介護予防ケアマネジメントの受託件数を増やし、今年度も収入 1 %UP を目指す。							

(令和 7 年度の収支実績は 11 月まで情報あり。12 月からは予測で入力。)

以上

サンライフ魚崎事務所（人事・法務・経理）

令和 8 年度 事業計画書

ささゆり会 R8 年度経営スローガン

「職員が意欲的かつ継続的に働ける職場づくり～ICT機器の活用～」

R8 年度から新たに事務所事業計画を策定する。事務所は人事・法務・経理を主体に、職員の皆さんを後方支援している。今年度の主な事業を下記に示す。

1. 収支計画

介護保険収入、人件費・事業費・事務費・施設全体の設備投資・感染対策費・防災対策費、収支差額計画を別紙のとおり立案した。基本給や処遇改善手当の昇給や増額、賞与・寸志支給予定額を算定した。国よりの介護職員等処遇改善加算の大幅な支給を期待したいが、まず計画として月額 9,000 円前後を基準として配分を行っていききたい。もし、これを超える額が支給されるようであれば、支給額を上積みしていききたい。

この収支計画を参考に各部門が R8 年度部門収支計画を策定した。加算については、加算を取りこぼしていないか、定期的にチェックし、収入を増やすことに努める。

2. 人材確保・育成計画

インドネシアからの新卒特定技能生の採用活動を、くすのき介護福祉事業協同組合と連携しながら行いたい。年間を通して 2～3 名程度、12 月から 2 月に入職できるように採用活動を進める。また、採用した特定技能生に対し、日本語クラス・介護クラス・国家試験クラスと経験年数に応じてクラス分けを行い、それぞれ事務長・生活相談員・施設長が講師として担当し、毎週、それぞれ 2 時間の講義を行う。加えて、くすのき介護福祉事業共同組合が実施する ZOOM による 3 時間自宅学習も進め、N2 と介護福祉士の合格を目指す。

特定技能生の入国手続き・在留期間延長手続き・賃貸住宅の更新等の手続きや生活備品の調達と設置・備品修理発生時の支援・体調不良時病院付き添い等に加え、いつでも相談できる窓口として精神的な支援を従来通り行っていきたい。

一方で、年間を通じて中途採用による介護経験者を採用していきたい。常勤職及び非常勤職・短時間職・介護にまつわる家事等の補助業務短時間職を採用していきたい。長らく採用できていない新卒の経理処理及び介護保険事務処理職を複数年かけ確保していきたい。募集要領として、インディード・ハローワーク・人材紹介などの機関を活用していく。

また、採用面接の際、ホームページを見たとの声をいただくことが多い。ホームページ内容をますます充実させ、行事だけではなく、職員や施設内の日々の様子を

ブログにアップし、アピールを続けていく。

3. 辞めない組織づくりと職員の健康

全職員の面談を施設長と事務長、本部長代理が行い、1年に1回は個別で相談や希望を発言できる機会の確保を続けていく。ICTの活用や補助業務担当者の配置で、介護職員の負担軽減に努め、職員配置を見直し、給与単価を上げていく。

互助会と協力し、旅行や食事会などなるべく多くの職員が参加でき、喜ばれる企画を立案していく。

健康診断のフォローを行い、再検査を受けていない職員に受診をすすめていく。

職員給食を毎日提供できる体制に戻したい。調理員の確保を継続しつつ、厨房職員の面談を行い、設備投資を含め、業務改善を行っていく。

4. 研修支援

法定研修を落とすことがないように、1年の内部研修スケジュールをこれまで通り組み立て、遂行していく。新人研修も認知症基礎研修を含めた、法定研修を速やかに行っていく。

認知症介護研修の受講者を増やすことや、介護福祉士資格取得の補助を行い、取れる加算を増やしていく。

介護支援専門員の更新手続きを支援する。今年度更新対象者の手続き期限、研修受講日程などを提供していく。また、介護支援専門員資格取得、介護福祉士実務者研修の受講、一般職員の外部研修受講支援を行う。

5. AI活用

ささゆり会が推奨している Google を各部署及び各部署管理者が使用できるように設定する。それぞれの部署で Google Photo・Gemini・NotebookLM 等を活用し、定型業務などにおいて大幅な生産性向上を構築していきたい。その活用支援を行っていく。また、運営会議メンバー等に依頼や指示連絡する場合、従来は連絡内容をコピーして配布したり内線で連絡して探していたが、今後、Slack を活用し各管理者のパソコンやスマホで確認し、スピーディな情報共有を図るとともに、コピー代等の事務費の削減又、連絡内容の書類を作ったり書いたりする時間削減にも繋げたい。

6. 提案活動の拡大

徐々に提案が各部署から出てくる風土ができつつあるが、これをもっと強力な生産性向上に反映させたい。朝礼や運営会議、各種会議の席で訴えていく。全職員に提案の意義を理解してもらい、1件でも多くの提案が申請されるようにしていく。

毎月の運営会議でなるべく早く提案に対する評価を行い、実践する。職員が各自の提案に効果があったこと、それを評価されたことが分かる仕組みにしていきたい。

7. ICT化推進の支援

R7年度2月までに全部署にWi-Fiを設置し、特養・短期入所・グループホーム・介護型ケアハウスに眠りスキャンを配置した。iPhoneも全部署に日勤者配置し、PCもWindows11搭載、ストレージ容量256GB、メインメモリ16GBに全部署更新し

た。これで「ほのぼのボイス」、将来搭載予定の「ほのぼのトーク」機能にも使用可能な性能を確保した。このPCの更新で、記録作業が高速化され、業務時間の大幅な短縮が期待されるようになった。また、PCは持ち運びを可能にするため、ノート型を多く配置し、今後会議等も出席しながら記録を行っていく。

「ほのぼの」とカメラ付き眠りスキャンが連動し、眠りスキャンデータや見守りカメラからの情報で、ケースへの記録や利用者様に健康異常が発生した時、さらなる迅速な対応が可能となる。また、介護現場にスマホを携帯し、その場で利用者様の記録を音声入力することや、インカムから直接音声入力ができる。さらに、4月からはインカムの活用によって介護者同士の会話が可能となり「職員を呼ぶ・相談する・報告する」の時間短縮に繋げる。

記録・画像確認・インカム機能をスマホ1台で全てを行い、介護職員が身軽に効率良く動けることを目標に、R8年度は、これらのICT機器を介護現場が徐々に使いこなせるように指導・支援を行っていく。

8. 経理処理・決算および会計士・税理士の監査と指導

伝票処理方法の簡素化、AI活用による決算見通し期間の短縮化を検討していく。また、キャッシュレス決済・電子決済への対応を進めていく。これらの経理処理に対し、牽制機能を働かせるために、いままで受けてきた年2回の会計士監査や、税理士の月次指導を継続していく。

全ての部署の指定の更新や加算の変更、県や市への報告、補助金の申請等を漏らすことなくこれまで通り行っていく。

9. その他、行事等の支援

沿革誌及びささゆり新聞の企画作成・本館玄関およびケアハウス玄関お花飾り・入居者様の外食及び外出電話受付・ケアハウス屋上花壇でのスイカ（春）大根（冬）の栽培やさつまいも作り・5名の音楽療法講師の日程管理・職員食堂の消毒作業・電力ガス水道月次使用実績通知・朝礼指揮当番表の作成とその推進・毎朝の駐車場の清掃・垣根剪定と管理など従来通り、事務所職員が担当し介護現場を支援していく。

以上